

山岳部における利用のあり方検討について

1. 経緯

平成 28 年度、世界自然遺産地域・国立公園の山岳部の自然環境を保全するとともに、山岳部利用者に屋久島らしい質の高い利用体験を提供することを目指し、山岳部利用のビジョンを定め、施設の整備及び維持管理、利用者管理並びに情報提供等の適切な管理方策を検討するため、有識者等による「屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部利用のあり方検討会」を設置。

平成 29 年度は検討会を 4 回開催、現地踏査を 3 ルート実施し、平成 28 年度整理した「ビジョン検討にあたっての主な論点」について議論しながら「屋久島世界自然遺産・国立公園の山岳部適正利用ビジョン（素案）」を取りまとめた。

<全体スケジュール予定>

2016 年度 H28 年度	第 1 回検討会 (12/25) 第 2 回検討会 (2/4)	【全体的な】 基本理念 ・ 基本方針	登山ルート ランク 設定
2017 年度 H29 年度	第 1 回検討会 (7/17) 第 2 回検討会 (8/18-20) ※現地踏査含む 第 3 回検討会 (11/4-6) ※現地踏査含む 第 4 回検討会 (1/29)		
2018 年度 H30 年度	第 1 回検討会 (7/31) 第 2 回検討会 (10/9) 第 3 回検討会 (11/12) 第 4 回検討会 (1/14)		
2019 年度	年度内 4 回程度開催		
2020 年度	年度内 4 回程度開催	施設整備 ・ 維持管理	利用者 管理 ・ サービス

2. 平成 30 年度進捗状況概要

「屋久島世界自然遺産・国立公園の山岳部における利用のあり方検討会」を 4 回開催し、前年度のビジョン案を決定するとともに、各登山道の区間ごとの現況整理、ルートごとの魅力の整理、ルートごとの利用体験ランクの整理、利用体験ランクごとの整備・管理方針を取りまとめた。

(1) 検討会開催日時：上表参照

(2) 参加者

- 【検討委員】 柴崎茂光（国立歴史民俗博物館准教授）
 （五十音順。敬称略） 土屋俊幸（東京農工大学大学院教授） ※座長
 吉田正人（筑波大学大学院教授）
- 【関係機関】 林野庁九州森林管理局、鹿児島県、鹿児島県教育委員会、屋久島警察署
 屋久島町、公益財団法人屋久島環境文化財団、屋久島町議会
 屋久島町区長連絡協議会、公益社団法人屋久島観光協会
 屋久島山岳ガイド連盟、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会
 宮之浦岳岳参り伝承会、環境省九州地方環境事務所
- 【オブザーバー】 屋久島世界遺産科学委員会委員

(3) 平成 30 年度検討の流れと成果

検討項目	ビジョンと基本方針	適正利用のためのランク設定	ランクごとの(管理)目標・方針
第1回 検討会 7/31	H29 検討内容の 確認・修正 →第1回で成案	①ランク設定の 考え方の確認	
第2回 検討会 10/9		②各登山道の現況整理 各登山ルート各区間ごとに現況を整理、特徴づけし、認識を共有	
聞き取り調査		③各登山ルートの魅力の確認 ・聞き取り調査等により対象登山ルートを選定 ・各登山ルートの魅力や利用の際に留意すべき点等を整理・共有	④登山ルートのあるべき利用体験ランク設定に応じた整備・管理方針の設定 屋久島山岳部の状況を踏まえ、想定される利用者と利用体験の質から5つのランクを設定し、各ランクに応じた整備・管理方針を設定
第3回 検討会 11/12		→第3回で合意	
第4回 検討会 1/14		④登山ルートごとにあるべき利用体験ランクを設定 対象ルートについて、屋久島山岳部の状況を踏まえ、想定される利用者と利用体験の質から5つのいずれかのランクを設定 →第4回で大枠合意	→第4回で合意
成果	ビジョンと基本方針を設定	目安となる対象登山ルートについて、各々のあるべき利用体験ランクを設定 ※5～10年後に目指すべき将来像として、あるべき利用体験の質を5段階で表したもの。 ※ランク設定は、魅力や得ることができる利用体験、必要な体力や想定されるリスク、整備状況等を踏まえた総合的なもので、難易度ではない。 ※ルートごと（区間ではない）。	登山ルートのあるべき利用体験ランク設定に応じた整備・管理方針を設定

(4) 平成 30 年度検討結果

① 屋久島山岳部の各登山道の現況整理

屋久島山岳部の優れた自然環境を損なうことなく質の高い多様な利用体験を提供できる、よりよい管理を行うことを目的に、各登山道のあるべき姿としての利用体験ランク分けおよびそれに見合うランクごとの整備・管理方針の設定検討の前段階として、屋久島の登山道の現況把握・認識共有を図ることを目的として、各登山道の現況整理を行った。

検討会でのご意見を踏まえ、本現況整理では評価項目を 5 項目として整理を行い、各登山道の評価結果一覧表および評価結果のレーダーチャート、各評価項目の評価区分表、参考指標データ表及び評価表、各評価項目の平均点及び評価、各参考指標の説明を示した（表 1～表 8、図 1）。

留意点

- 今回の現況整理の結果は各登山道の現状を表すための便宜的なものであり、今後検討を行うあるべき姿としてのランク分けとは異なるものである。また、現況整理は登山道の各区間を対象としており、実際の利用を想定した登山ルート（登山口～経由地～下山口）での整理とは異なるものである。
- 今回の現況整理を行う前提条件として、春から秋にかけての季節を想定し、積雪の可能性のある冬季は含まない。また、注意報や警報が発表されるような荒天時については想定せず、晴れから通常程度の降雨までの気象条件を想定する。積雪時・降雪時、荒天時には体力面、リスク面がより高い評価となることに留意する必要がある。
- 「Ⅲ.利用に伴うリスク」の参考指標として「徒渉点の箇所数・頻度」を組み込んでいるが、徒渉点の川幅については考慮されていない。徒渉点のリスクは川幅によっても大きく変動し得るため、留意する必要がある。
- 天候の急変や天候悪化時のリスクといった天候面でのリスク評価について、データが無く参考指標として組み込めていない。天候面のリスクが考慮されていないことに留意する必要がある。

② 各登山道の魅力の整理

各登山道のあるべき姿としての利用体験ランク分けおよびそれに見合うランクごとの整備・管理方針の設定検討の前段階として、各登山道の魅力（自然の魅力、文化的な魅力）は何か、各登山道でどのような利用者に何を体感して楽しんでもらいたいのかといった「各登山道の魅力」について、有識者・観光関係者・山岳関係者・地元関係者・地元高校山岳部員・関係機関担当等の方々に聞き取り調査を実施し、また、検討会でのご意見を踏まえ、実際の利用を想定した登山ルート（入山口～経由地～下山口）ごとに「登山道の魅力整理シート」として整理した（表 9）。

③ 屋久島登山道の整備・管理方針の設定

屋久島山岳部の状況や想定される利用者と利用体験の質（どのような体験をしてもらいたいのか）を踏まえて 5 つのランクを設定し、各ランクにおいて、登山道（ルート）のあるべき姿としての利用体験の質の確保や優れた自然環境の保全のため、屋久島山岳部の優れた自然環境を損なうことなく質の高い多様な利用体験を提供できる、よりよい管理を行うことを目的に、ランクごとの整備・管理方針の設定を行った（表 10）。

留意点

- 屋久島山岳部を利用する前提として、屋久島の山は、現代においても山岳信仰が受け継がれている「聖地」であり、屋久島の自然の厳しさを認識した上で、山への畏敬の念や感謝、遠慮の心を持っての利用が求められる（屋久島の山の文化に対する配慮）。
- 実際の利用を想定した登山ルート（登山口～経由地～下山口）での整理である。
- 利用体験ランクの設定は無雪期で荒天時を除いた天候での利用時を想定しており、降雪期・積雪期や荒天時には利用に伴うリスク（徒渉点の増水や視界不良、転倒のリスク等）が想定より高くなることに留意が必要である。
- ランクを問わずヒルによる咬傷の可能性があるので、適切な対策を行うことが推奨される。

④ 各登山ルートのあるべき利用体験ランクの設定

整理した「登山道区間の現況」や「各登山ルートの魅力」、等を踏まえ、第3回検討会時にはグループ討議を実施する等して議論し、屋久島山岳部の優れた自然環境を損なうことなく質の高い多様な利用体験を提供できる、よりよい管理を行うことを目的に、各登山道のあるべき姿としての利用体験ランクの設定を行った（表 11-12、図 2）。

なお、利用体験ランク設定対象の登山ルートは、今年度実施した聞き取り調査で得られた登山ルートを主とし、現状の利用実態から考えた場合に一般的ではないと判断されるルートや、本検討の対象路線外のルートを除外したルートとした。

前提となる条件

- 利用体験ランクは、5年後から10年後に目指すべき将来像として、各登山ルートでのあるべき利用体験の質を5段階で表したものとなる。
- ランクの設定は、各登山ルートの魅力や得ることができる利用体験、必要な体力や想定されるリスク、整備状況等を踏まえた総合的な判断による。

留意点

- 検討会での議論を踏まえ、実際の利用を想定した登山ルート（登山口～経由地～下山口）を対象としている。
- 利用体験ランクは、各登山ルートの現況を表すものではなく、また、各登山ルートの難易度の評価ではないことに留意する。
- 具体的な整備方針については、各登山ルートの利用体験ランクを踏まえ、区間ごとに検討する。

3. 次年度予定

「屋久島世界自然遺産・国立公園の山岳部における利用のあり方検討会」を4回程度開催し、施設整備と維持管理、利用者管理とサービスの提供、モニタリング等について、より具体的な検討を行っていく。

【世界自然遺産・国立公園における山岳部の適正利用のビジョン（仮称）の骨子イメージ】

1. 作成目的
2. 背景
 - (1) 屋久島（山岳部）の特徴と価値
 - (2) 屋久島の歴史と社会の変遷
 - (3) 屋久島山岳部の保護と利用の状況
 - (4) 屋久島山岳部の保護と適正利用に関する取り組み経緯
 - (5) 屋久島山岳部の保護と適正利用の課題
 - (6) その他
3. 対象区域
4. 基本理念と基本方針
 - ※理念、目指す姿（目標）と目標実現のための方針
5. 適正利用のためのランク設定
6. ランクごとの（管理）目標・方針
7. 施設の整備と維持管理
 - (1) 施設の整備
 - ※整備の方針や内容、施設整備水準の設定
 - (2) 施設の維持管理
 - ※維持管理の方針・方策
8. 利用者管理とサービスの提供
 - (1) 利用者管理
 - ※例：利用コントロール、ルールなど
 - (2) サービスの提供
 - ※例：情報提供方策など
9. その他
 - ※モニタリング項目・基準、管理体制など

※進捗状況等を記載

H28年度記載
(随時 精査修正追記)

H29年度 概ね合意
H30年度 合意
(今後も随時精査修正追記は行う)

H30年度 合意
(今後も随時精査修正追記は行う)

H31～32年度
検討・記載予定
(随時 精査修正追記)

表 1 屋久島山岳部の各登山道の現況整理－各登山道の評価項目ごとの評価【5項目】

No.	路線No.	路線名	各評価項目の評価点 (*印は評価点の調整を行ったことを表す)					評価調整の理由
			I.利用の頻度・ 利用の容易さ	II.体力面の 厳しさ	III.利用に伴う リスク	IV.自然の 状況	V.施設・管理	
1	1	龍神杉線	5	4	5	4	3	
2	2	愛子岳線	4	3	4	4	4	
3	3-1	白谷雲水峽・弥生杉コース (入口～弥生杉～さつき吊り橋～入口)	1	1	1*	4	1	「III.利用に伴うリスク」について、現状を踏まえ2から1へ変更。
4		白谷雲水峽・奉行杉コース (さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉～二代くぐり杉付近の分岐)	2	2	4	4	2	
5		白谷雲水峽 (入口～辻峠:片道)	1	2	3	4	1	
6	3-2	補川線 (辻峠～補川分かれ)	4	2	3	2	4	
7	4-1,4-2	永田線 (歩道入口～岳の辻～鹿之沢小屋)	5	5	5	5	4	
8	4-3,4-4	永田線 (鹿之沢小屋～永田岳～焼野三叉路)	5	3*	4	5	4	「II.体力面の厳しさ」について、ヒアリングでの「アップダウンが多く体力を消耗する区間」とのご意見を考慮し2から3へ変更。
9	5	花山線 (歩道入口～鹿之沢小屋)	5	5	5	5	4	
10	6	花之江河ヤクスギランド線 (登山道入口～花之江河)	5	4	5	5	3	
11	7-1	ヤクスギランド・50分コース (入口～仏陀杉～出口)	1	1	1*	4	1	「III.利用に伴うリスク」について、現状を踏まえ2から1へ変更。
12		ヤクスギランド・150分コース (荒川橋分岐～蛇紋杉～仏陀杉分岐)	2	2	2	4	2	
13	7-2	太忠岳線 (蛇紋杉～太忠岳)	4*	3	3	4	3	「I.利用の頻度・利用の容易さ」について、実際の利用状況を踏まえ5から4へ変更。
14	8-1	縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)	1	3	2	3	2	
15	8-2	縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)	3	3	2	4	2	
16	8-3	宮之浦岳線 (高塚小屋～焼野三叉路)	4	3	3	5	3	
17	8-4	宮之浦岳線 (花之江河～焼野三叉路)	4	3	3	5	4	
18	8-5	宮之浦岳線 (淀川登山口～花之江河)	2	3	3	5	2	
19	8-6	宮之浦岳線 (黒味分かれ～黒味岳)	4	2*	3	5	4	「II.体力面の厳しさ」について、ヒアリングでの「複数箇所あるロープ場で体力を消耗する区間」とのご意見を考慮し、1から2へ変更。
20	8-4、8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河～焼野三叉路)	3*	4	4*	5	3	「I.利用の頻度・利用の容易さ」について、連続区間の利用実態を踏まえ、2から3へ変更。 「III.利用に伴うリスク」について、天候悪化時のリスク等を踏まえ3から4へ変更。
21	9	栗生線 (栗生下の登山口～花之江河)	5	5	5	5	5	
22	10	湯泊線 (登山口～花之江河)	5	4	5	5	5	
23	11	モツチヨム岳線	3	3	4	4	4	
24	12-1	尾之間線 (登山口～蛇之口滝)	3	2	4	4	3	
25	12-2	尾之間線 (蛇之口滝入口～淀川登山口)	4	4	5	4	4	

No.	路線No.	路線名	I. 頻度・容易さ	II. 体力面の厳しき	III. 利用に伴うリスク	IV. 自然の状況	V. 施設・管理
1	1	1. 龍神杉線	5	4	5	4	3
2	2	2. 愛子岳線	4	3	4	4	4
3		3-1. 白谷雲水峡・弥生杉コース	1	1	1*	4	1
4	3-1	3-1. 白谷雲水峡・奉行杉コース	2	2	4	4	2
5		3-1. 白谷雲水峡 (入口～辻峠・片道)	1	2	3	4	1
6	3-2	3-2. 楠川線 (辻峠～楠川分かれ)	4	2	3	2	4
7	4-1.4-2	4-1.4-2 永田線 (入口～岳の辻～鹿之沢小屋)	5	5	5	5	4
8	4-3.4-4	4-3.4-4 永田線 (鹿之沢小屋～焼野三叉路)	5	3*	4	5	4
9	5	5. 花山線 (入口～鹿之沢小屋)	5	5	5	5	4
10	6	6. 花之江河ヤクスギランド線 (登山道入口～花之江河)	5	4	5	5	3
11		7-1. ヤクスギランド・50分コース (入口～仏陀杉～出口)	1	1	1*	4	1
12	7-1	7-1. ヤクスギランド・150分コース (荒川橋分岐～仏陀杉分岐)	2	2	2	4	2
13	7-2	7-2. 太忠岳線 (蛇紋杉～太忠岳)	4*	3	3	4	3
14	8-1	8-1. 縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)	1	3	2	3	2
15	8-2	8-2. 縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)	3	3	2	4	2
16	8-3	8-3. 宮之浦岳線 (高塚小屋～焼野三叉路)	4	3	3	5	3
17	8-4	8-4. 宮之浦岳線 (花之江河～焼野三叉路)	4	3	3	5	4
18	8-5	8-5. 宮之浦岳線 (淀川登山口～花之江河)	2	3	3	5	2
19	8-6	8-6. 宮之浦岳線 (黒味分かれ～黒味岳)	4	2*	3	5	4
20	8-4.8-5	8-4.8-5 宮之浦線 (淀川登山口～焼野三叉路)	3*	4	4*	5	3
21	9	9. 栗生線 (栗生下の登山口～花之江河)	5	5	5	5	5
22	10	10. 湯泊線 (登山口～花之江河)	5	4	5	5	5
23	11	11. モツチョム岳線	3	3	4	4	4
24	12-1	12-1. 尾の間線 (登山口～蛇之口滝)	3	2	4	4	3
25	12-2	12-2. 尾の間線 (蛇之口滝入口～淀川登山口)	4	4	5	4	4

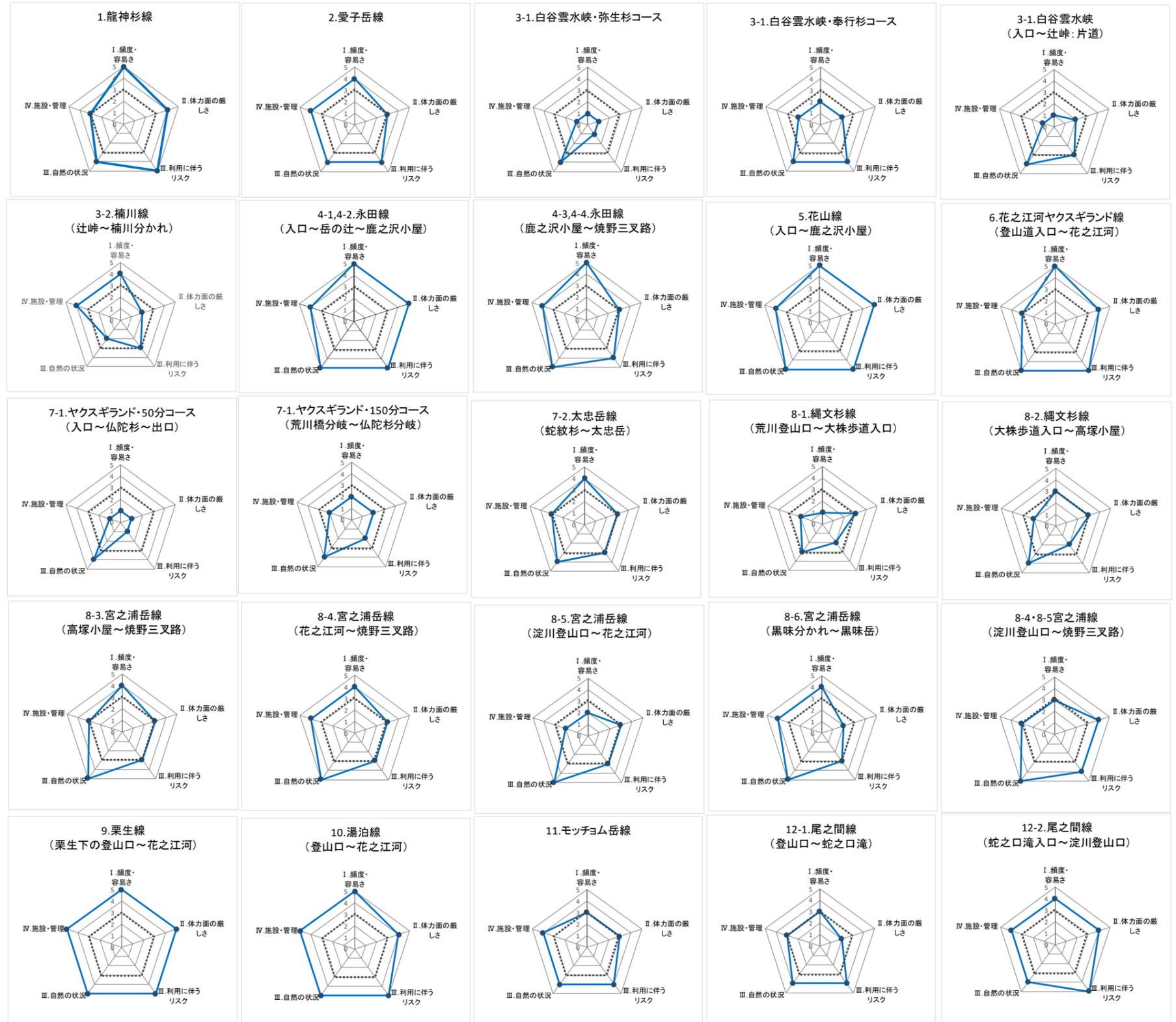
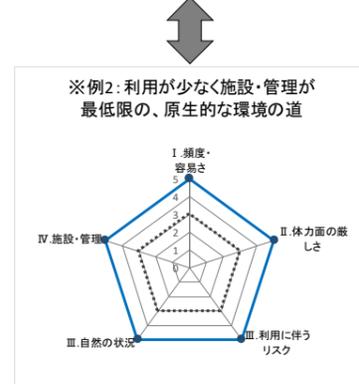
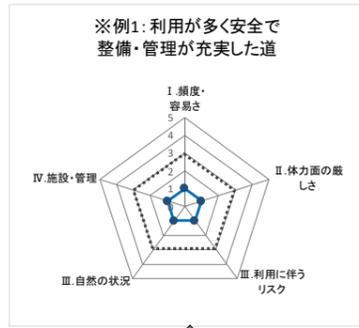


図 1 屋久島山岳部の各登山道の現況整理—各登山道の評価レーダーチャート【5項目】

表2 屋久島山岳部の各登山道の現況整理－各評価項目の評価区分表【5項目】

I. 利用の頻度・利用の容易さ			II. 体力面の厳しさ			III. リスク			IV. 自然の状況			V. 施設・管理									
評価	路線No.	路線名	評価点	路線No.	路線名	評価点	路線No.	路線名	評価	路線No.	路線名	評価	路線No.	路線名							
利用が多い・アクセス容易 ↑	1	3-1	白谷雲水峡 (入口～辻峠・片道)	1	3-1	白谷雲水峡・弥生杉コース (入口～弥生杉～さつき吊り橋～入口)	1	3-1*	白谷雲水峡・弥生杉コース* (入口～弥生杉～さつき吊り橋～入口)	2	3-2	楠川線 (辻峠～楠川分かれ)	1	3-1	白谷雲水峡 (入口～辻峠・片道)						
		7-1	ヤクスギランド・50分コース (入口～仏陀杉～出口)		7-1	ヤクスギランド・50分コース (入口～仏陀杉～出口)		7-1*	ヤクスギランド・50分コース* (入口～仏陀杉～出口)		8-1	宮之浦岳縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)		3-1	白谷雲水峡・弥生杉コース (入口～弥生杉～さつき吊り橋～入口)						
		3-1	白谷雲水峡・弥生杉コース (入口～弥生杉～さつき吊り橋～入口)		2	3-1		白谷雲水峡・奉行杉コース (さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉～二代ぐり杉付近の分岐)	8-1		宮之浦岳縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)	4		1	龍神杉線	7-1	ヤクスギランド・50分コース (入口～仏陀杉～出口)				
		8-1	縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)			3-1		白谷雲水峡 (入口～辻峠・片道)	7-1		ヤクスギランド・150分コース (荒川橋分岐～蛇紋杉～仏陀杉分岐)			8-2	宮之浦岳縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)	7-1	ヤクスギランド・150分コース (荒川橋分岐～蛇紋杉～仏陀杉分岐)				
	2	3-1	白谷雲水峡・奉行杉コース (さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉～二代ぐり杉付近の分岐)	3	3-2	楠川線 (辻峠～楠川分かれ)	2	8-2	宮之浦岳縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)	3	2	愛子岳線	2	8-1	縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)						
		7-1	ヤクスギランド・150分コース (荒川橋分岐～蛇紋杉～仏陀杉分岐)		7-1	ヤクスギランド・150分コース (荒川橋分岐～蛇紋杉～仏陀杉分岐)		8-2	宮之浦岳縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)		8-2	尾之間線 (登山口～蛇之口滝)		8-2	縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)						
		8-5	宮之浦岳縄文杉線 (淀川登山口～花之江河)		8-6*	宮之浦岳縄文杉線* (黒味分かれ～黒味岳)		8-3	宮之浦岳縄文杉線 (高塚小屋～焼野三叉路)		2	2		愛子岳線	8-5	宮之浦岳線 (淀川登山口～花之江河)					
		3	8-4,8-5*		宮之浦線* (淀川登山口～花之江河～焼野三叉路)	12-1		尾之間線 (登山口～蛇之口滝)	8-3			白谷雲水峡 (入口～辻峠・片道)		5	3-1	白谷雲水峡・弥生杉コース (入口～弥生杉～さつき吊り橋～入口)	3-1	白谷雲水峡・奉行杉コース (さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉～二代ぐり杉付近の分岐)			
	8-2		縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)	3	2	愛子岳線	8-4	宮之浦岳縄文杉線 (花之江河～焼野三叉路)	3-1	3-1	白谷雲水峡 (入口～辻峠・片道)	7-2	太忠岳線 (蛇紋杉～太忠岳)								
	11		モッコヨム岳線		4-3,4-4*	永田線* (鹿之沢小屋～永田岳～焼野三叉路)	8-5	宮之浦岳縄文杉線 (淀川登山口～花之江河)		7-1	ヤクスギランド・50分コース (入口～仏陀杉～出口)	8-4,8-5	宮之浦線 (淀川登山口～花之江河～焼野三叉路)								
	利用が少ない・アクセス困難 ↓	4	12-2	尾之間線 (蛇之口滝入口～淀川登山口)	4	7-2	太忠岳線 (蛇紋杉～太忠岳)	4	7-2	太忠岳線 (蛇紋杉～太忠岳)	5	11	モッコヨム岳線	4	11	モッコヨム岳線					
			3-2	楠川線 (辻峠～楠川分かれ)		8-1	宮之浦岳縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)		8-6	宮之浦岳縄文杉線 (黒味分かれ～黒味岳)		12-2	尾之間線 (蛇之口滝入口～淀川登山口)		3-2	楠川線 (辻峠～楠川分かれ)					
			8-3	宮之浦岳線 (高塚小屋～焼野三叉路)		8-2	宮之浦岳縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)		3-1	白谷雲水峡・奉行杉コース (さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉～二代ぐり杉付近の分岐)		6	花之江河ヤクスギランド線 (登山道入口～花之江河)		5	花山線 (歩道入口～鹿之沢小屋)					
			8-4	宮之浦岳線 (花之江河～焼野三叉路)		8-3	宮之浦岳縄文杉線 (高塚小屋～焼野三叉路)		4-3,4-4	永田線 (鹿之沢小屋～永田岳～焼野三叉路)		10	湯泊線 (登山口～花之江河)		4-1,4-2	永田線 (歩道入口～岳の辻～鹿之沢小屋)					
		5	8-6	宮之浦岳線 (黒味分かれ～黒味岳)	5	8-4	宮之浦岳縄文杉線 (花之江河～焼野三叉路)	5	12-1	尾之間線 (登山口～蛇之口滝)	9	8-3	宮之浦岳縄文杉線 (高塚小屋～焼野三叉路)	9	8-3	宮之浦岳縄文杉線 (高塚小屋～焼野三叉路)					
			2	愛子岳線		8-5	宮之浦岳縄文杉線 (淀川登山口～花之江河)		2	愛子岳線		8-4	宮之浦岳縄文杉線 (花之江河～焼野三叉路)		8-4	宮之浦岳線 (花之江河～焼野三叉路)					
			7-2*	太忠岳線* (蛇紋杉～太忠岳)		11	モッコヨム岳線		11	モッコヨム岳線		10	湯泊線 (登山口～花之江河)		4-3,4-4	永田線 (鹿之沢小屋～永田岳～焼野三叉路)					
			1	1		龍神杉線	1		1	龍神杉線		1	1		龍神杉線	8-4,8-5	8-6	宮之浦岳線 (黒味分かれ～黒味岳)	2	2	愛子岳線
				4-1,4-2		永田線 (歩道入口～岳の辻～鹿之沢小屋)			6	花之江河ヤクスギランド線 (登山道入口～花之江河)			6		花之江河ヤクスギランド線 (登山道入口～花之江河)		8-6	宮之浦岳縄文杉線 (黒味分かれ～黒味岳)		9	栗生線 (栗生下の登山口～花之江河)
			5	花山線 (歩道入口～鹿之沢小屋)		10	湯泊線 (登山口～花之江河)		10	湯泊線 (登山口～花之江河)		10	湯泊線 (登山口～花之江河)		10	湯泊線 (登山口～花之江河)	10	湯泊線 (登山口～花之江河)	10	湯泊線 (登山口～花之江河)	
4-3,4-4	永田線 (鹿之沢小屋～永田岳～焼野三叉路)	12-2	尾之間線 (蛇之口滝入口～淀川登山口)	12-2	尾之間線 (蛇之口滝入口～淀川登山口)	5	花山線 (歩道入口～鹿之沢小屋)	5	花山線 (歩道入口～鹿之沢小屋)	5	栗生線 (栗生下の登山口～花之江河)	5	栗生線 (栗生下の登山口～花之江河)								
6	花之江河ヤクスギランド線 (登山道入口～花之江河)	4-1,4-2	永田線 (歩道入口～岳の辻～鹿之沢小屋)	4-1,4-2	永田線 (歩道入口～岳の辻～鹿之沢小屋)	12-2	尾之間線 (蛇之口滝入口～淀川登山口)	12-2	尾之間線 (蛇之口滝入口～淀川登山口)	9	栗生線 (栗生下の登山口～花之江河)	9	栗生線 (栗生下の登山口～花之江河)								
9	栗生線 (栗生下の登山口～花之江河)	9	栗生線 (栗生下の登山口～花之江河)	9	栗生線 (栗生下の登山口～花之江河)	4-1,4-2	永田線 (歩道入口～岳の辻～鹿之沢小屋)	4-1,4-2	永田線 (歩道入口～岳の辻～鹿之沢小屋)	10	湯泊線 (登山口～花之江河)	10	湯泊線 (登山口～花之江河)								
10	湯泊線 (登山口～花之江河)	9	栗生線 (栗生下の登山口～花之江河)	9	栗生線 (栗生下の登山口～花之江河)																

*印はランク調整を行った路線を表す。
評価平均点の順番を基本としているが、ランク調整を行った路線についてはその限りではない。

※「1」の評価の区間無し

表3 屋久島山岳部の各登山道の現況整理ー参考指標データ表【5項目】(1/2)

No.	路線No.	項目	基本データ		I. 利用の頻度・利用の容易さ			II. 体面への厳しさ		III. 利用に伴うリスク															
			距離(km)	コースタイム(時間)・上り	① 年間入込人数	② 観光客の各登山道への立ち寄り率	③ アクセスの容易さ	④ 踏破に必要な体力(上りのルート定数)	⑤ 区間内の最高標高	⑥ 徒渉点の箇所数・頻度		⑦ 安全性の特記事項 ロープ場の有無・路面状況	⑧ 遭難件数のうち道迷いの発生状況 (H18-H29:12年度分) ※区間が不明確な事例は除外			道迷いの発生リスク	⑨ 遭難件数のうち、事故・アクシデント (転倒、ケガ、疲労、増水等による救援) 発生状況 ※区間が不明確な事例は除外			転倒等の事故発生リスク	携帯電話の通話可能状況	⑩ ヤマビルによる咬傷頻度			
										徒渉点の箇所数	距離当たりの徒渉点の箇所数		発生件数 (H18-H29:12年度分)	※レク・コース別発生件数の割合(管理者へのヒアリング結果)	1km当たりの発生頻度		「利用の頻度」と「発生件数」の関係 ①入込人数 100人当たりの発生件数(12年度分)	発生件数 (H18-H29:12年度分)	※レク・コース別発生件数の割合(管理者へのヒアリング結果)				1km当たりの発生頻度	「利用の頻度」と「発生件数」の関係 ①入込人数 100人当たりの発生件数(12年度分)	
		データの説明	GISデータから算出	山と高原地図久島(2018年版)参照	登山者カウンターからのデータ・レク森利用者数集計	※レク・コース別の利用割合(管理者へのヒアリング結果)	利用者へのアンケート調査結果	登山口からバス停・車両通行道路までの距離を算出し、利用可能なアクセスマークを登山口から500m以内の場合は車両によるアクセスマークとして整理)	区間の距離、踏破時間、標高差を基に算出*は概算	GISデータ・ルートマップから算出(概算)	H27・H30聞き取り調査結果	1km当たりの徒渉点の箇所数	H27・H30聞き取り調査結果	発生件数 (H18-H29:12年度分)	※レク・コース別発生件数の割合(管理者へのヒアリング結果)	1km当たりの発生頻度	「利用の頻度」と「発生件数」の関係 ①入込人数 100人当たりの発生件数(12年度分)	ヒアリング調査の結果より相対的に5段階で評価 ①リスク低い ②やや低い ③中程度 ④やや高い ⑤リスク高い	発生件数 (H18-H29:12年度分)	※レク・コース別発生件数の割合(管理者へのヒアリング結果)	1km当たりの発生頻度	「利用の頻度」と「発生件数」の関係 ①入込人数 100人当たりの発生件数(12年度分)	ヒアリング調査の結果より相対的に5段階で評価 ①リスク低い ②やや低い ③中程度 ④やや高い ⑤リスク高い	最も通話可能範囲が狭いキャリアのエリアマップを参照 A: 区間の半分程度で可能 B: 区間の一部で可能 C: ほぼ不可	ヒアリング調査結果 A: 少ない B: 中程度 C: 多い
		単位	km	時間	人	-	-	-	m	箇所	箇所数/km	-	-	件	-	件/km	件/100人	-	件	-	件/km	件/100人	-	-	-
1	1	龍神杉線	4.5	4.1	-	1.4	車両可(悪路)	22	1,230	2	0.44	-	0	-	0.0	-	④	0	-	0.0	-	④	C	C	
2	2	愛子岳線	3.8	4.0	515	1.2	車両可(舗装路) ※路面に草が茂り、通行困難	18	1,235	0	0.00	3・4カ所 頂上付近の岩が滑りやすい	4	-	1.1	0.777	④	0	-	0.0	0.000	④	A	C	
3	3-1	白谷雲水峡・弥生杉コース (入口～弥生杉～さつき吊り橋～入口)	1.1	1.0	95,355	3割	両方可	5未満*	720	0	0.00	露出した大岩が滑りやすい	9	ほぼ無い(1割未満)	2.1 ※弥生杉コース・奉行杉コース・辻峠までの全区間(4.3km)で計算	0.009	①	18	6割	4.2 ※弥生杉コース・奉行杉コース・辻峠までの全区間(4.3km)で計算	0.019	①	C	A	
4		白谷雲水峡・奉行杉コース (さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉～二代くぐり杉付近の分岐)	1.4	2.0		1割	両方可	5～9*	840	4	2.86	-		4割			③		1割			③	C	A	
5		白谷雲水峡 (入口～辻峠・片道)	2.2	1.8		6割	両方可	8	979	1	0.45	露出した大岩が滑りやすい		6割			②		3割			②	C	A	
6	3-2	楠川線 (辻峠～楠川分かれ)	1.3	1.0	7,038	43.4	両方不可	5	979	0	0.00	-	3	-	2.3	0.043	②	4	3.1	0.057	②	C	B		
7	4-1,4-2	永田線 (歩道入口～岳の辻～鹿之沢小屋)	8.8	9.7	156	4.5	車両可(悪路)	38	1,560	3	0.34	-	7	-	0.6	1.675	⑤	1	0.1	0.239	④	B	C		
8	4-3,4-4	永田線 (鹿之沢小屋～永田岳～焼野三叉路)	2.3	2.3	418	-	両方不可	9	1,886	0	0.00	6・7カ所	-	-	0.6	1.675	③	-	0.1	0.239	⑤	C	A		
9	5	花山線 (歩道入口～鹿之沢小屋)	6.3	7.8	262	-	車両可(悪路)	30	1,635	2	0.32	-	3	-	0.5	1.145	⑤	1	0.2	0.382	④	C	C		
10	6	花之江河ヤクスギランド線 (登山道入口～花之江河)	7.5	6.8	-	-	両方不可	24	1,660	1	0.13	-	0	-	0.0	-	④	1	0.1	-	④	C	C		
11	7-1	ヤクスギランド・50分コース (入口～仏陀杉～出口)	1.3	0.8	64,841	7割	両方可	5未満*	1,030	0	0.00	-	4	ほぼ無い(1割未満)	1.3 ※ヤクスギランド内の全区間3.2kmで計算	0.006	①	2	ほぼ無い(1割未満)	0.6 ※ヤクスギランド内の全区間3.2kmで計算	0.003	①	C	A	
12		ヤクスギランド・150分コース (荒川橋分岐～蛇紋杉～仏陀杉分岐)	1.5	1.5		3割	両方可	5～9*	1,105	0	0.00	-		9割以上			①		9割以上			②	C	B	
13	7-2	太志岳線 (蛇紋杉～太志岳)	2.1	2.5	3,868	4.2	両方不可	11	1,497	0	0.00	2カ所	1	-	0.5	0.026	③	1	0.5	0.026	③	C	B		
14	8-1	縄文杉線 (荒川登山口～大株歩道入口)	7.5	2.7	65,413	83.4	バス可(舗装路)	12	948	0	0.00	-	1	-	0.1	0.002	①	72	7.6	0.110	①	C	A		
15	8-2	縄文杉線 (大株歩道入口～高塚小屋)	2.1	2.2			9 ※傾斜等を踏まえると体感的な厳しさは10～15	両方不可	1,330	0	0.00	-					①				③	C	A		
16	8-3	宮之浦岳線 (高塚小屋～焼野三叉路)	4.2	4.2			9,033	23.3	両方不可	15	1,785	0					0.00				3カ所 強風時、転倒等のリスクあり	1	-	0.2	0.011
17	8-4	宮之浦岳線 (花之江河～焼野三叉路)	3.8	3.1	12,760	23.3	両方不可	11	1,936	0	0.00	3カ所	8	-	1.1	0.063	③	26	3.5	0.204	③	C	A		
18	8-5	宮之浦岳線 (淀川登山口～花之江河)	3.1	2.7			車両可(舗装路)	10	1,660	0	0.00	-					③				③	C	A		
19	8-6	宮之浦岳線 (黒味分かれ～黒味岳)	0.6	0.8			-	6.6	両方不可	3	1,831	0					0.00				5・6カ所	-	-	-	③
20	8-4, 8-5	宮之浦岳線 (淀川登山口～花之江河～焼野三叉路)	6.9	5.8	12,760	23.3	車両可(舗装路)	21	1,936	0	0.00	3カ所	8	-	1.1	0.063	③	26	3.5	0.204	③	C	A		
21	9	栗生線 (栗生下の登山口～花之江河)	9.3	8.3	-	-	車両可(悪路) ※登山口不明瞭	33	1,702	0	0.00	-	0	-	0.0	-	⑤	0	0.0	-	⑤	C	C		
22	10	湯泊線 (登山口～花之江河)	7.6	9.5	-	-	車両可(悪路) ※現状、林道崩壊のため車両でのアクセスマーク不可	25	1,663	0	0.00	-	0	-	0.0	-	⑤	2	0.3	-	④	C	C		
23	11	モッコム岳線	2.3	3.5	1,918	5.3	車両可(舗装路)	15	979	1	0.44	6カ所以上 路面状況悪い	4	-	1.8	0.209	③	2	0.9	0.104	④	A	C		
24	12-1	尾之間線 (登山口～蛇之口滝)	3.4	2.5	1,234	2.8	車両可(舗装路)	8	490	2	0.59	-	4	-	1.2	0.324	③	3	0.9	0.243	③	B	C		
25	12-2	尾之間線 (蛇之口滝入口～淀川登山口)	7.5	6.5	-	-	車両可(舗装路)	26	1,370	3	0.40	-	1	-	0.1	-	④	0	0.0	-	④	C	C		

表5 屋久島山岳部の各登山道の現況整理－各参考指標の評価点の基準【5項目】

評価項目	具体的な参考指標		評価点				
			1 利用が多い・アクセス容易 容易・リスク低い 原生度が低い 整備・管理が充実	2	3	4	5 利用が少ない・アクセス困難 厳しい・リスク高い 原生度が高い 最低限の整備・管理
Ⅰ. 利用の頻度・利用の容易さ	① 年間入込人数		10万～5万人	5万～2万5千人	2万5千～5千人	5千人～500人	500人未満
	② 観光客の立ち寄り率		100～80	79～80	59～40	39～20	20未満
	③ アクセスの容易さ		バス・レンタカー等車両 両方アクセス可能	車両でアクセス可能 (舗装路)	-	車両でアクセス可能 (悪路)	車両利用不可
Ⅱ. 体力面の厳しさ	④ 踏破に必要な体力(上りのルート定数)		5未満	5～9	10～19	20～29	30以上
Ⅲ. 利用に伴うリスク	⑤ 区間内の最高標高(m)		-	-	1,500m未満	-	1,500m以上
	⑥ 徒渉点の箇所数・頻度	箇所数	-	-	0	1・2箇所	3箇所以上
		距離(1km)当たりの箇所数	-	-	0	0.01～0.99	1.00以上
	⑦ 安全性の特記事項(ロープ場の有無、路面状況)		表記				
	⑧ 道迷いの発生状況	入込人数100人当たりの発生件数	少ない (0～0.009)	比較的少ない (0.010～0.049)	中程度 (0.050～0.099)	比較的多い (0.100～0.999)	多い (1.0以上)
		道迷いの発生リスク	ヒアリングからの相対的な評価	低い	やや低い	中程度	やや高い
	⑨ 事故・アクシデントの発生状況	入込人数100人当たりの発生件数	少ない (0～0.009)	比較的少ない (0.010～0.049)	中程度 (0.050～0.099)	比較的多い (0.100～0.199)	多い (0.200以上)
		転倒等の事故発生リスク	ヒアリングからの相対的な評価	低い	やや低い	中程度	やや高い
	⑩ 携帯電話の通話可能状況		区間の半分程度で 通話可能	-	区間の一部で 通話可能	-	通話不可
	⑪ ヤマビルによる咬傷頻度	ヒアリングからの相対的な評価	-	-	少ない (10回に1回程度)	中程度 (5回に1回程度)	多い (2回に1回程度)
	Ⅳ. 自然の状況	⑫ 【生態系の指標】	自然植生・広葉樹二次林の比率	自然植生または 広葉樹二次林の比率が 25%未満	自然植生または 広葉樹二次林の比率が 25%～49%	自然植生または 広葉樹二次林の比率が 50%～79%	自然植生が80%未満・ 自然植生または 広葉樹二次林の比率が 80%以上
⑬ 【自然景観・自然美の指標】		①スギ天然林の通過、②ヤクシマシャクナゲ群落の通過、 ③ヤクザサ帯の通過、④照葉樹林帯の通過、 ⑤林齢250年以上の森林の通過、⑥眺望点の数	該当項目無し	1項目該当	2項目該当	3項目該当	4項目以上該当
Ⅴ. 施設・管理	⑭ トイレの設置状況	距離(1km)当たりの箇所数	1kmに1箇所以上 1.0以上	1～2kmに1箇所 0.99～0.50	2～4kmに1箇所 0.49～0.25	4kmに1箇所未満 0.24～0.01	無し
		コースタイム1時間当たりの箇所数	1時間に1箇所以上 1.0以上	1～2時間に1箇所 0.99～0.50	2～4時間に1箇所程度 0.49～0.25	4時間に1箇所未満 0.24～0.01	無し
		入込人数100人当たりの個数	0.500以上	0.499～0.100	0.099～0.050	0.049～0.001	無し
	⑮ 携帯トイレブースの設置状況	コースタイム1時間当たりの箇所数	1時間に1箇所以上 1.0以上	1～2時間に1箇所 0.99～0.50	2～4時間に1箇所程度 0.49～0.25	4時間に1箇所未満 0.24～0.01	無し
	⑯ 避難小屋(宿泊場所)の設置状況(※日帰り想定区間は除外)	設置の有無	1以上	-	-	-	無し
	⑰ 構造物(登山道整備工、手すり・ロープ、デッキ等)の設置状況	距離(1km)当たり	多い 15個以上	比較的多い 14.9～10個	中程度 9.9～5個	比較的少ない 4.9～1.0個	少ない 1個未満
	⑱ 登山道の崩壊・損傷の状況	距離(1km)当たり	少ない 0～0.99カ所	-	中程度 1～4.99カ所	-	多い 5カ所以上
	⑲ 明瞭標識の設置状況	距離(1km)当たり	多い 15個以上	比較的多い 14.9～10個	中程度 9.9～5個	比較的少ない 4.9～1.0個	少ない 1個未満
	⑳ 関係者による巡視の頻度		1日に1回程度	1週間に1回程度	1ヶ月に1回程度	半年に1回程度	1年～数年に1回程度
	㉑ 特別保護地区、第1種特別地域、原生自然環境保全地域に含まれる割合		0～19%	20～39%	40～59%	60～79%	80～100%

表6 屋久島山岳部の各登山道の現況整理-参考指標評価表【5項目】

No.	路線No.	項目	I.利用の頻度・利用の容易さ			II.体力面の厳しさ			III.利用に伴うリスク										IV.自然の状況		V.施設・管理									
			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)			
			年間入込人数	観光客の各登山道への立ち寄り率	アクセスの容易さ	踏破に必要な体力(上りのルート定数)	区間内の最高標高	徒歩道の箇所数	徒歩道の頻度	安全性の特記事項(ロープ場の有無・踏面状況)	遭難件数のうち道迷いの発生状況(H18-H22:12年度分)※区間が不明確な事例は除外	遭難件数のうち、事故・アクシデント(転倒、ケガ、疲労、増水等による救護)発生状況※区間が不明確な事例は除外	転倒等の事故発生リスク	携帯電話の通話可能状況	ヤマビルによる咬傷頻度	【生態系の指標】自然植生・広葉樹2次林の比率	【自然景観・自然美の指標】	トイレの設置状況			携帯トイレ・トイレの設置状況	避難小屋(宿泊場所)の設置状況	構造物の設置状況	登山道の崩壊・損傷の状況	明瞭標識の設置状況(7km)	関係者による巡回の頻度	特別保護地区、第1種特別地区、野生自然環境保全地域に含まれる割合			
			登山者カウニングからコース別のデータ:利用割合 レク利用:(管理者へのヒアリング結果)	利用者へのアンケート調査結果	登山口からバス停車場までの距離を算出し、利用可能なアクセス手段を選定	区間の距離、踏破時間、標高差を基に算出※は概算	GISデータからマップから算出	H27・H30開き取り調査結果	1km当たりの徒歩道の箇所数	H27・H30開き取り調査結果	「利用の頻度」と「発生件数」の関係(ヒアリング結果)	※レク・発生件数の割合(管理者へのヒアリング結果)	ヒアリング調査の結果より相対的に5段階で評価	利用の頻度:①入込人数100人当たりの発生件数(12年度分)	※レク・発生件数の割合(管理者へのヒアリング結果)	ヒアリング調査の結果より相対的に5段階で評価	遭難可能範囲が狭いキャリア参照	ヒアリング調査結果	GISデータから算出	該当する項目数	1km当たりのトイレ設置箇所数	コースタイム1時間当たりのトイレ設置箇所数	①入込人数100人当たりのトイレ設置箇所数	コースタイム1時間当たりのトイレ設置箇所数	区間内の箇所数※日帰り想定のみは評価対象外	1km当たりの箇所数	1km当たりの箇所数	1km当たりの箇所数	1km当たりの合計標識数	ヒアリング調査結果
		評価点の区分	【5段階】 1:100,000~50,000人 2:50,000~25,000人 3:25,000~5,000人 4:5,000~500人 5:500人未満	【5段階】 1:100~80 2:79~60 3:59~40 4:39~20 5:20未満	【4段階】 1:バス・レンタカー等の両方でアクセス可能 2:車両でのアクセス可能(舗装路) 3:車両でのアクセス可能(未舗装路) 4:車両でのアクセス不可	【5段階】 1:5未満 2:5~9 3:10~19 4:20~29 5:30以上	【2段階】 1:1,500m未満 2:1,500m以上	【3段階】 3:0 4:1,2箇所 5:3箇所以上	※表記	【5段階】 1:少ない(0~0.009) 2:比較的少ない(0.010~0.049) 3:中程度(0.050~0.099) 4:比較的多い(0.100~0.999) 5:多い(1.0以上)	【5段階】 1:低い 2:やや低い 3:中程度 4:やや高い 5:高い	【5段階】 1:少ない(0~0.009) 2:比較的少ない(0.010~0.049) 3:中程度(0.050~0.099) 4:比較的多い(0.100~0.999) 5:多い(0.2以上)	【5段階】 1:低い 2:やや低い 3:中程度 4:やや高い 5:高い	【3段階】 1:区間の半分程度で通話可能 2:区間の一部で通話可能 3:多い(2回に1回程度)	【3段階】 1:少ない(10回に1回程度) 2:中程度(5回に1回程度) 3:多い(2回に1回程度)	【5段階】 1:自然植生または広葉樹2次林の比率が95%未満 2:自然植生の比率が90%未満 3:自然植生の比率が85%未満 4:自然植生の比率が80%未満 5:自然植生の比率が75%以上	【5段階】 1:該当項目無し 2:1項目該当 3:2項目該当 4:3項目該当 5:4項目以上該当	【5段階】 1:1.0以上 2:0.99~0.50 3:0.49~0.25 4:0.24~0.01 5:無し	【5段階】 1:1.0以上 2:0.99~0.50 3:0.49~0.25 4:0.24~0.01 5:無し	【5段階】 1:1.0以上 2:0.49~0.10 3:0.09~0.05 4:0.049~0.001 5:無し	【2段階】 1:有り(1以上) 2:無し	【5段階】 1:15.0以上 2:14.9~10.0 3:9.9~5.0 4:4.9~1.0 5:1.0未満	【3段階】 1:1.0~0.99 2:1.0~4.99 3:5.0以上	【5段階】 1:15.0以上 2:14.9~10.0 3:9.9~5.0 4:4.9~1.0 5:1.0未満	【5段階】 1:1日に1回程度 2:1週間に1回程度 3:1ヶ月に1回程度 4:半年に1回程度 5:1年~数年に1回程度	【5段階】 1:1.0~19% 2:20~39% 3:40~59% 4:60~79% 5:80~100%				
		「●」は総合的な評価点の算出に使用する項目	●	①に近い指標のため、評価項目からは除外	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
1	1	龍神杉線	5*	5	4	4	3	4	4	-	-	4	-	4	5	5	4	3	5	5	5	5	4	1	3	3	3	1		
2	2	愛子岳線	4	5	4※	3	3	3	3	3・4カ所 頂上付近の岩が滑りやすい	4	4	1	4	1	5	4	4	5	5	5	5	5	3	3	3	5			
3	3-1	白谷雲水峽・弥生杉コース (入口~弥生杉~さつき吊り橋~入口)	2	1	1	1	3	3	3	3	露出した大岩が滑りやすい	1	1	2	1	5	3	5	3	2	1	4	5	1	1	1	1	1		
4		白谷雲水峽・奉行杉コース (さつき吊り橋付近の分岐~奉行杉~二代くぐり杉付近の分岐)	1		3	1	2	3	5	5	-	1	2	3	2	3	5	3	5	5	5	5	5	1	1	1	2	1		
5		白谷雲水峽 (入口~辻峠:片道)	1		1	1	2	3	4	4	露出した大岩が滑りやすい	1	2	1	2	1	3	5	3	2	1	4	2	1	1	1	1	2	1	
6	3-2	楠川線 (辻峠~楠川分かれ)	3	3	5	2	3	3	3	-	2	2	3	2	5	4	3	1	5	5	5	5	5	3	3	4	3	1		
7	4-1.4-2	永田線 (歩道入口~岳の辻~鹿之沢小屋)	5	5	4	5	5	5	4	-	5	5	5	4	3	5	5	4	4	4	1	4	1	5	3	4	5	4		
8	4-3.4-4	永田線 (鹿之沢小屋~永田岳~焼野三叉路)	5		5	2	5	3	3	3	6・7カ所	5	3	5	5	5	3	5	3	3	3	2	3	1	5*	5*	4*	5	5	
9	5	花山線 (歩道入口~鹿之沢小屋)	5	-	4	5	5	4	4	-	5	5	5	4	5	5	5	5	4	4	2	4	1	5	3	4	5	4		
10	6	花之江河ヤクスギランド線 (登山道入口~花之江河)	5*	-	5	4	5	4	4	-	-	4	-	4	5	5	4	4	4	4	-	3	1	4	3	4	4	4		
11	7-1	ヤクスギランド・50分コース (入口~仏陀杉~出口)	1	2	1	1	3	3	3	-	1	1	1	1	1	5	3	5	3	2	1	4	5	日帰り 想定	1	1	1	1	1	
12		ヤクスギランド・150分コース (荒川橋分岐~蛇紋杉~仏陀杉分岐)	3	3	1	2	3	3	3	-	1	2	1	1	2	5	3	5	3	5	5	5	2	日帰り 想定	1	1	1	2	1	
13	7-2	太忠岳線 (蛇紋杉~太忠岳)	4	5	5	3	3	3	3	2カ所	2	3	2	3	5	4	5	3	5	5	5	3	日帰り 想定	2	3	1	3	3		
14	8-1	縄文杉線 (荒川登山口~大株歩道入口)	1	1	2	3	3	3	3	-	1	1	4	1	5	3	4	2	3	1	4	3	5	1	1	1	3	2		
15	8-2	縄文杉線 (大株歩道入口~高塚小屋)	1		5	3※	3	3	3	3	-	1	1	4	3	5	3	5	2	2	2	4	1	1	1	3	3	5		
16	8-3	宮之浦岳線 (高塚小屋~焼野三叉路)	3	4	5	3	5	3	3	3カ所 強風時、転倒等の リスク高い	2	3	3	3	5	3	5	5	3	3	4	3	1	4	3	4	3	5		
17	8-4	宮之浦岳線 (花之江河~焼野三叉路)	3		5	3	5	3	3	3	3カ所	3	3	5	3	5	3	5	5	5	5	2	5	4	5	4	3	5		
18	8-5	宮之浦岳線 (淀川登山口~花之江河)	3		2	3	5	3	3	3	-	3	3	5	3	5	3	5	4	2	1	4	1	1	3	1	3	3	5	
19	8-6	宮之浦岳線 (黒味分かれ~黒味岳)	3*	5	5	1	5	3	3	5・6カ所	3	3	5	4	5	3	5	5	5	5	5	5	5	1	3	4	3	5		
20	8-4, 8-5	宮之浦線 (淀川登山口~花之江河~焼野三叉路)	3	4	2	4	5	3	3	3カ所	3	3	5	3	5	3	5	5	3	3	4	2	1	4	3	4	3	5		
21	9	栗生線 (栗生下の登山口~花之江河)	5*	-	5※	5	5	3	3	-	-	5	-	5	5	5	5	5	5	5	5	4	5	4	3	5	5	5		
22	10	湯泊線 (登山口~花之江河)	5*	-	5※	4	5	3	3	-	-	5	-	4	5	5	5	4	5	5	5	4	5	5	5	4	5	5		
23	11	モッコム岳線	4	5	2	3	3	4	4	6カ所以上 踏面状況悪い	4	3	4	4	1	5	4	4	3	3	2	5	日帰り 想定	3	5	3	3	3		
24	12-1	尾之間線 (登山口~蛇之口滝)	4	5	2	2	3	4	4	-	4	3	5	3	3	5	4	3	5	5	5	5	5	4	1	2	3	1		
25	12-2	尾之間線 (蛇之口滝入口~淀川登山口)	5*	-	2	4	3	5	4	-	-	4	-	4	5	5	4	4	4	4	-	5	5	4	3	4	4	4		

表7 屋久島山岳部の各登山道の現況整理－各評価項目の平均点及び評価【5項目】

●各評価項目の平均点

No.	路線No.	路線名	各評価項目の平均点				
			I 利用の頻度・利用の容易さ	II 体力面の厳しさ	III 利用に伴うリスク	IV 自然の状況	V 施設・管理
1	1	龍神杉線	4.50	4	4.25	3.50	3.14
2	2	梶子岳線	4.00	3	4.00	4.00	4.14
3	3-1	白谷瀬水峽・養生杉コース(入口～養生杉～さつき吊り橋～入口)	1.50	1	2.00	4.00	1.57
4		白谷瀬水峽・奉行杉コース(さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉～二代くり杉付近の分岐)	2.00	2	3.50	4.00	2.29
5		白谷瀬水峽(入口～辻峠:片道)	1.00	2	2.75	4.00	1.25
6	3-2	瀬川線(辻峠～瀬川分かれ)	4.00	2	2.75	2.00	3.63
7	4-1,4-2	永田線(参道入口～岳の辻～鷹之沢小屋)	4.50	5	4.75	4.50	3.75
8	4-3,4-4	永田線(鷹之沢小屋～永田岳～鏡野三叉路)	5.00	2	3.50	5.00	3.88
9	5	花山線(参道入口～鷹之沢小屋)	4.50	5	4.50	5.00	3.75
10	6	花之江阿ヤクスギランド線(登山道入口～花之江阿)	5.00	4	4.25	4.50	3.38
11	7-1	ヤクスギランド・60分コース(入口～仏陀杉～出口)	1.50	1	2.00	4.00	1.57
12		ヤクスギランド・150分コース(瀬川橋分岐～総鞍杉～仏陀杉分岐)	2.00	2	2.50	4.00	1.86
13	7-2	大忠岳線(総鞍杉～大忠岳)	4.50	3	3.25	4.00	2.86
14	8-1	縄文杉線(瀬川登山口～大輪参道入口)	1.50	3	2.00	3.00	2.13
15	8-2	縄文杉線(大輪参道入口～高塚小屋)	3.00	3	2.50	3.50	2.13
16	8-3	宮之塔岳線(高塚小屋～鏡野三叉路)	4.00	3	3.00	5.00	3.25
17	8-4	宮之塔岳線(花之江阿～鏡野三叉路)	4.00	3	3.00	5.00	4.13
18	8-5	宮之塔岳線(瀬川登山口～花之江阿)	2.50	3	3.00	4.50	2.25
19	8-6	宮之塔岳線(鳥峠分かれ～鳥峠岳)	4.00	1	3.25	5.00	3.88
20	8-4, 8-5	宮之塔線(瀬川登山口～花之江阿～鏡野三叉路)	2.50	4	3.00	5.00	3.13
21	9	栗生線(栗生下の登山口～花之江阿)	5.00	5	4.50	5.00	4.50
22	10	湯治線(登山口～花之江阿)	5.00	4	4.25	4.50	4.75
23	11	モツヤム岳線	3.00	3	4.00	4.00	3.57
24	12-1	尾之岡線(登山口～蛇之口滝)	3.00	2	3.75	3.50	3.25
25	12-2	尾之岡線(蛇之口滝入口～瀬川登山口)	3.50	4	4.50	4.00	4.13

●平均点からの各評価項目の評価(調整無し)

No.	路線No.	路線名	各評価項目の評価				
			I 利用の頻度・利用の容易さ	II 体力面の厳しさ	III 利用に伴うリスク	IV 自然の状況	V 施設・管理
1	1	龍神杉線	5	4	5	4	3
2	2	梶子岳線	4	3	4	4	4
3	3-1	白谷瀬水峽・養生杉コース(入口～養生杉～さつき吊り橋～入口)	1	1	2	4	1
4		白谷瀬水峽・奉行杉コース(さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉～二代くり杉付近の分岐)	2	2	4	4	2
5		白谷瀬水峽(入口～辻峠:片道)	1	2	3	4	1
6	3-2	瀬川線(辻峠～瀬川分かれ)	4	2	3	2	4
7	4-1,4-2	永田線(参道入口～岳の辻～鷹之沢小屋)	5	5	5	5	4
8	4-3,4-4	永田線(鷹之沢小屋～永田岳～鏡野三叉路)	5	2	4	5	4
9	5	花山線(参道入口～鷹之沢小屋)	5	5	5	5	4
10	6	花之江阿ヤクスギランド線(登山道入口～花之江阿)	5	4	5	5	3
11	7-1	ヤクスギランド・60分コース(入口～仏陀杉～出口)	1	1	2	4	1
12		ヤクスギランド・150分コース(瀬川橋分岐～総鞍杉～仏陀杉分岐)	2	2	2	4	2
13	7-2	大忠岳線(総鞍杉～大忠岳)	5	3	3	4	3
14	8-1	縄文杉線(瀬川登山口～大輪参道入口)	1	3	2	3	2
15	8-2	縄文杉線(大輪参道入口～高塚小屋)	3	3	2	4	2
16	8-3	宮之塔岳線(高塚小屋～鏡野三叉路)	4	3	3	5	3
17	8-4	宮之塔岳線(花之江阿～鏡野三叉路)	4	3	3	5	4
18	8-5	宮之塔岳線(瀬川登山口～花之江阿)	2	3	3	5	2
19	8-6	宮之塔岳線(鳥峠分かれ～鳥峠岳)	4	1	3	5	4
20	8-4, 8-5	宮之塔線(瀬川登山口～花之江阿～鏡野三叉路)	2	4	3	5	3
21	9	栗生線(栗生下の登山口～花之江阿)	5	5	5	5	5
22	10	湯治線(登山口～花之江阿)	5	4	5	5	5
23	11	モツヤム岳線	3	3	4	4	4
24	12-1	尾之岡線(登山口～蛇之口滝)	3	2	4	4	3
25	12-2	尾之岡線(蛇之口滝入口～瀬川登山口)	4	4	5	4	4

●平均点からの各評価項目の評価(調整)

No.	路線No.	路線名	各評価項目の評価点 (*印は評価点の調整を行ったことを表す)					評価調整の理由
			I 利用の頻度・利用の容易さ	II 体力面の厳しさ	III 利用に伴うリスク	IV 自然の状況	V 施設・管理	
1	1	龍神杉線	5	4	5	4	3	
2	2	梶子岳線	4	3	4	4	4	
3	3-1	白谷瀬水峽・養生杉コース(入口～養生杉～さつき吊り橋～入口)	1	1	1*	4	1	「III. 利用に伴うリスク」について、現状を踏まえ2から1へ変更。
4		白谷瀬水峽・奉行杉コース(さつき吊り橋付近の分岐～奉行杉～二代くり杉付近の分岐)	2	2	4	4	2	
5		白谷瀬水峽(入口～辻峠:片道)	1	2	3	4	1	
6	3-2	瀬川線(辻峠～瀬川分かれ)	4	2	3	2	4	
7	4-1,4-2	永田線(参道入口～岳の辻～鷹之沢小屋)	5	5	5	5	4	
8	4-3,4-4	永田線(鷹之沢小屋～永田岳～鏡野三叉路)	5	3*	4	5	4	「II. 体力面の厳しさ」について、ヒアリングでの「アップダウンが多く体力を消耗する区間」とのご意見を考慮し、1から2へ変更。
9	5	花山線(参道入口～鷹之沢小屋)	5	5	5	5	4	
10	6	花之江阿ヤクスギランド線(登山道入口～花之江阿)	5	4	5	5	3	
11	7-1	ヤクスギランド・60分コース(入口～仏陀杉～出口)	1	1	1*	4	1	「I. 利用に伴うリスク」について、現状を踏まえ2から1へ変更。
12		ヤクスギランド・150分コース(瀬川橋分岐～総鞍杉～仏陀杉分岐)	2	2	2	4	2	
13	7-2	大忠岳線(総鞍杉～大忠岳)	4*	3	3	4	3	「I. 利用の頻度・利用の容易さ」について、実際の利用状況を踏まえ5から4へ変更。
14	8-1	縄文杉線(瀬川登山口～大輪参道入口)	1	3	2	3	2	
15	8-2	縄文杉線(大輪参道入口～高塚小屋)	3	3	2	4	2	
16	8-3	宮之塔岳線(高塚小屋～鏡野三叉路)	4	3	3	5	3	
17	8-4	宮之塔岳線(花之江阿～鏡野三叉路)	4	3	3	5	4	
18	8-5	宮之塔岳線(瀬川登山口～花之江阿)	2	3	3	5	2	
19	8-6	宮之塔岳線(鳥峠分かれ～鳥峠岳)	4	2*	3	5	4	「II. 体力面の厳しさ」について、ヒアリングでの「複数箇所あるロープ場で体力を消耗する区間」とのご意見を考慮し、1から2へ変更。
20	8-4, 8-5	宮之塔線(瀬川登山口～花之江阿～鏡野三叉路)	3*	4	4*	5	3	「I. 利用の頻度・利用の容易さ」について、連続区間の利用実態を踏まえ、2から3へ変更。 「III. 利用に伴うリスク」について、天候悪化時のリスク等を踏まえ3から4へ変更。
21	9	栗生線(栗生下の登山口～花之江阿)	5	5	5	5	5	
22	10	湯治線(登山口～花之江阿)	5	4	5	5	5	
23	11	モツヤム岳線	3	3	4	4	4	
24	12-1	尾之岡線(登山口～蛇之口滝)	3	2	4	4	3	
25	12-2	尾之岡線(蛇之口滝入口～瀬川登山口)	4	4	5	4	4	

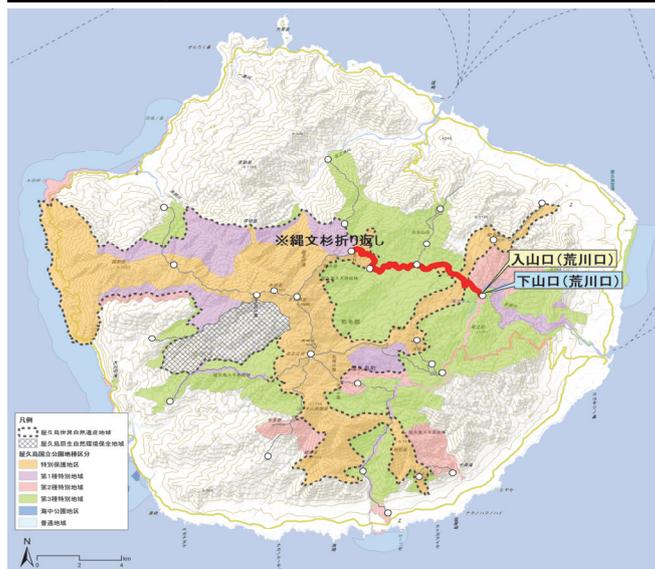
各項目の評価	評価点の平均値
1	1.00～1.79
2	1.80～2.59
3	2.60～3.39
4	3.40～4.19
5	4.20～5.00

表 8 屋久島山岳部の各登山道の現況整理－各参考指標の説明【5項目】

評価項目	具体的な参考指標		データ出典	説明	
Ⅰ. 利用の頻度・利用の容易さ	①	年間入込人数	H29カウンターデータ・自然休養林利用者データ H29山岳部利用のあり方検討調査等業務報告書	H29年業務報告書において整理されているH29年1月～12月（楠川カウンターのみH27年1月～12月）の登山者カウンターによる登山者数の調査結果・自然休養林（白谷雲水峡、ヤクスギランド）利用者データ（H28年4月～H29年3月）を整理。（カウンター位置：「大株」、「淀川」、「高塚」、「楠川」、「モッチョム」、「永田」、「花山」、「尾之間」、「愛子」、「太忠」の10カ所） ※計測年度の違いやデータの欠測等があるため参考値。	
	②	観光客の各登山道への立ち寄り率	H27利用の適正化に向けた検討・利用に関するモニタリング実施業務アンケート調査	H27年度業務報告書において整理されている屋久島への来訪者に対するアンケート調査結果より算出。 H27年3月～H28年2月にかけて計5回実施された、来訪者への「来訪場所」に関するアンケート調査結果（1,696サンプル）より、来訪場所及びそれに伴う登山道の利用状況を整理。 最も利用が多かった「白谷雲水峡」を100とした場合の各登山道の利用率を立ち寄り率として算出。	
	③	アクセスの容易さ	環境省提供・登山道GISデータ GIS上で距離を計測	各登山口までのアクセスについて、バス利用の場合とレンタカー等の車両利用の場合を想定。 バス利用の場合は各登山口から最寄りのバス停までの距離、レンタカー等の車両利用の場合は車が乗り入れ可能な場所までの距離をGIS上で計測。登山口が駐車地点から500m以内の場合は、車両によるアクセス可能として整理。レンタカー等の車両利用の場合は路面状況等を考慮し、アクセスの難易度について以下の4段階で評価。 「バス・レンタカー等の車両の両方でアクセス可能」、「どちらかのみ可：舗装路でアクセス容易」、「どちらかのみ可：悪路でアクセス困難」、「徒歩でのみ到達可能」。	
Ⅱ. 体力面の厳しさ	④	踏破に必要な体力（上りのルート定数）	区間の距離・コースタイム・累積上り・下り標高差のデータ H27利用の適正化に向けた検討・利用に関するモニタリング実施業務 H29山岳部利用のあり方検討調査等業務報告書	登山の際に消費するエネルギーの指標（鹿児島大学 山本正嘉教授が考案）。 「コースタイム時間」×1.8+「ルート全長km」×0.3+「累積上り標高差km」×10+「累積下り標高差km」×0.6で算出。 「長野県・山梨県・静岡県・新潟県・岐阜県・群馬県」の日本百名山の登山ルート「グレーディング」等に利用されており、数値の目安として、本「グレーディング」では全行程の数値が30未満のルートは日帰り可能、30～50未満は1泊以上、50以上は2泊以上と整理している。	
Ⅲ. 利用に伴うリスク	⑤	区間内の最高標高（m）	環境省提供・登山道GISデータ 基盤地図情報（数値標高モデルデータ） 山と高原地図屋久島（2018年版）	GISデータ及び山と高原地図屋久島を参考に、区間内の最高標高（概算）を抽出。 高山病は高齢者では1,500m以上から発症する可能性があると考えられる（岐阜大学大学院医学系研究科HP「高山病について」参照）。	
	⑥	徒渉点の箇所数・頻度	H27利用の適正化に向けた検討・利用に関するモニタリング実施業務	ヒアリング調査によりデータを収集。 ・徒渉点は、雨天時の増水による行程変更や事故発生リスクがある箇所数を収集。 ・徒渉点の頻度は、徒渉点の箇所数を登山道の距離（km）で除し、算出。 ・特記事項は、事故（転倒）発生リスクが高くなる事項を収集。	
	⑦	安全性の特記事項（ロープ場の有無・路面状況）	屋久島町HP「最近の遭難事故」データ・屋久島警察署提供データを整理 一部、平成30年度聞き取り調査の結果を含む	・遭難発生原因を「道迷い」、「事故・アクシデント」（「滑落・転倒」、「負傷」、「疲労・体力不足」、「川の増水・積雪」、「熱中症・脱水症」、「その他」）に大別し集計。 ・発生区間が不明確な場合や計画上の登山道以外で発生した事故について、算出から除外。 ・遭難発生件数として、複数人数のグループを1とカウント。 ・ヒアリング調査より、各登山道の「道迷い」、「転倒等の事故」の発生リスクの程度について、5段階（①リスク低い②やや低い③中程度④やや高い⑤リスク高い）で聞き取り。	
	⑧	遭難件数のうち道迷いの発生状況			
	⑨	遭難件数のうち、事故・アクシデント（転倒、ケガ、疲労、増水等による救援）発生状況	H18～H29山岳部での遭難発生件数 （屋久島町HP「最近の遭難事故」データ・屋久島警察署提供データを整理） 関係者へのヒアリング		
		転倒等の事故発生リスク			
	⑩	携帯電話の通話可能状況	携帯電話会社発表のサービスエリアマップ 関係者へのヒアリング	携帯電話会社発表のサービスエリアマップから、各登山道での利用状況について「A：区間の半分程度で利用可能」、「B：区間の一部で利用可能」、「C：ほぼ利用不可」の3段階で評価。	
⑪	ヤマビルによる咬傷頻度	関係者へのヒアリング	ヒアリング調査より、各登山道を踏破するなかでヤマビルの咬傷被害に遭う頻度を以下の3段階で評価。 「少ない（10回に1回程度）」、「中程度（5回に1回程度）」、「多い（2回に1回程度）」		
Ⅳ. 自然の状況	⑫	生態系の指標	「自然植生」、「広葉樹二次林」の比率	環境省提供・登山道GISデータ 第6回・7回自然環境保全基礎調査植生GISデータ	
	⑬	自然景観・自然美の指標	スギ天然林群落の通過	環境省提供・登山道GISデータ 第6回・7回自然環境保全基礎調査植生GISデータ	第6回・7回自然環境保全基礎調査植生GISデータにおいて、自然植生として「フナクス域自然植生」、「ヤブツバキクス域自然植生」、「河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等」、「自然裸地」、広葉樹二次林として「落葉広葉樹二次林」、「常緑広葉樹二次林」を抽出。登山道GISデータを重ね合わせ、各区分に重なる登山道の距離の割合を算出。
			ヤクシマジャクナゲ群落周辺の通過	環境省提供・登山道GISデータ 第6回・7回自然環境保全基礎調査植生GISデータ	第6回・7回自然環境保全基礎調査植生GISデータにおいて「ヤクシマジャクナゲ・ミヤマビャクシン群集」を抽出。登山道GISデータと重ね合わせ、当該群落周辺を通過する登山道を抽出。
			ヤクザサ帯の通過	環境省提供・登山道GISデータ 第6回・7回自然環境保全基礎調査植生GISデータ	第6回・7回自然環境保全基礎調査植生GISデータにおいて「ヤクシマダケ群集」を抽出。登山道GISデータと重ね合わせ、当該群落周辺を通過する登山道を抽出。
			照葉樹林帯の通過	環境省提供・登山道GISデータ 第6回・7回自然環境保全基礎調査植生GISデータ	第6回・7回自然環境保全基礎調査植生GISデータにおいて「常緑広葉樹林」、「常緑広葉樹二次林」を抽出。登山道GISデータと重ね合わせ、当該植生周辺を通過する登山道を抽出。
			林齢の高い森林（250年以上）の通過	環境省提供・登山道GISデータ 屋久島森林管理署提供・国有林林齢GISデータ 第6回・7回自然環境保全基礎調査植生GISデータ	国有林林齢GISデータにおいて、林齢が250年以上の範囲を抽出。登山道GISデータと重ね合わせ、当該範囲周辺を通過する登山道を抽出。
	⑭	眺望点の数	山と高原地図屋久島（2018年版） 関係者へのヒアリング	「ポケット登山マップ屋久島」及び「山と高原地図屋久島」、関係者へのヒアリングにより、各登山道での眺望が開ける山頂・展望台の地点数を算出。	
Ⅴ. 施設・管理	⑮	トイレの設置状況	距離当たりのトイレ設置箇所数	ポケット登山マップ屋久島（2013～14年版） 山と高原地図屋久島（2018年版） 環境省提供・登山道GISデータ	「ポケット登山マップ屋久島」及び「山と高原地図屋久島」を参考に、各登山道にあるトイレ箇所数を算出。 登山道の連結地点にある場合はどちらの登山道にもカウント。 トイレ箇所数を登山道の距離（km）で除し、算出。
			時間当たりのトイレ設置箇所数	ポケット登山マップ屋久島（2013～14年版） 山と高原地図屋久島（2018年版）	「ポケット登山マップ屋久島」及び「山と高原地図屋久島」を参考に、各登山道にあるトイレ箇所数を算出。 登山道の連結地点にある場合はどちらの登山道にもカウント。 トイレ箇所数をコースタイム（時間）で除し、算出。
			利用者当たりのトイレ設置個数の状況	ポケット登山マップ屋久島（2013～14年版） 山と高原地図屋久島（2018年版） H29カウンターデータ・自然休養林利用者データ 関係者へのヒアリング	ヒアリング等により各トイレ設置箇所のトイレ設置個数（男性用・女性用は区別しない）を把握した上で、①年間入込人数で除し、算出。
⑯	携帯トイレブースの設置状況	時間当たりのブース設置箇所数	ポケット登山マップ屋久島（2013～14年版） 山と高原地図屋久島（2018年版）	「ポケット登山マップ屋久島」及び「山と高原地図屋久島」を参考に各登山道にある箇所数・個数を算出。 登山道の連結地点にある場合はどちらの登山道にもカウント。 携帯トイレブース箇所数をコースタイム（時間）で除し、算出。	
⑰	避難小屋（宿泊場所）の設置状況	避難小屋の設置状況	ポケット登山マップ屋久島（2013～14年版） 山と高原地図屋久島（2018年版）	「ポケット登山マップ屋久島」及び「山と高原地図屋久島」を参考に各登山道にある避難小屋の箇所数を算出。 登山道の連結地点にある場合はどちらの登山道にもカウント。 主に日帰り想定登山ルートについては評価対象外。	
⑱	構築物の設置状況	構築物の設置状況	H28・H29利用による影響モニタリング業務報告書 環境省提供・登山道GISデータ	H28・H29利用による影響モニタリング業務により得られた構築物（登山道整備工、手すり・ロープ、デッキ等）の地点データより、各登山道における箇所数を算出。 箇所数を登山道の距離（km）で除し、算出。	
⑲	登山道の崩壊・損傷の状況	登山道の崩壊・損傷の状況	H28・H29利用による影響モニタリング業務報告書 環境省提供・登山道GISデータ	H28・H29利用による影響モニタリング業務により得られた登山道の崩壊・損傷の地点データより、各登山道における箇所数を算出。 箇所数を登山道の距離（km）で除し、算出。	
⑳	明瞭標識の設置状況（/km）	明瞭標識の設置状況（/km）	H28・H29利用による影響モニタリング業務報告書 環境省提供・登山道GISデータ	H28・H29利用による影響モニタリング業務により得られた標識の地点データより、各登山道における箇所数を算出。「明瞭な標識（見えやすさが「明瞭」、「通常」のもの）」の地点データを使用し算出。 箇所数を登山道の距離（km）で除し、算出。	
㉑	関係者による巡視の頻度	関係者による巡視の頻度	関係者へのヒアリング	ヒアリング調査より、各登山道の近年の巡視の頻度について以下の5段階で評価。 「①1日に1回程度」、「②1週間に1回程度」、「③1ヶ月に1回程度」、「④半年に1回程度」、「⑤1年～数年に1回程度」。	
㉒	特別保護地区・第1種特別地域、原生自然環境保全地域に含まれる割合	特別保護地区・第1種特別地域、原生自然環境保全地域に含まれる割合	環境省提供・登山道GISデータ 環境省提供・地理区分GISデータ	GIS上で、特別保護地区・第1種特別地域・原生自然環境保全地域に含まれる登山道の距離の割合を算出。	

表9 登山道の魅力整理シート (例：荒川口～縄文杉 往復 (日帰り))

No.1	荒川口～縄文杉 往復 (日帰り)	総コース タイム	9:00	行程	荒川口⇒大株歩道入口⇒縄文杉 (往復) 日帰り
区間	8-1、8-2(大株歩道入口～縄文杉区間) 往復	総距離	18.8km		



1.ルートの魅力

自然	<ul style="list-style-type: none"> ・ルートを通じて、本州の山との違いを体感できる。屋久島の山は表土が薄いので土はすぐ流されてしまうため、本州の山とは木の生え方が違う。屋久島では倒木や大岩の上などの苔むした場所に大木が生える。【①】 ・縄文杉は大きな見どころ。迫力がある。【②】【⑮】【雑誌】 ・昔(昭和40年頃)、縄文杉には触ることができるほど近づくことができ、木々が茂っている自然の状況のなかで縄文杉を見ることができた。【⑫】 ・大株歩道では300年を超える広葉樹も多く見ることができる。着生植物が豊富に生えた大木がある。【①】 ・ウィルソン株付近の、300～400年生の小杉の密集した美林。森の成り立ちを感じられる。【③】 ・縄文杉付近の、人の手は入っているが原生性が感じられる巨木の森。【③】 ・翁杉、ウィルソン株、大王杉、夫婦杉などのスギの巨木。【雑誌】 ・三代杉は倒木更新や切株更新がみられる、ある意味屋久島を象徴する杉。【雑誌】 ・様々な種類の植物を見ることができる。【⑤】
景色・眺望	<ul style="list-style-type: none"> ・11月頃の薄く雪が降った際の風景も良い。【⑤】 ・雨が降って霧がかかっている時の雰囲気も魅力的。【⑤】 ・大株歩道入り口から縄文杉までの道は風景を見ているだけで楽しい。【⑥】 ・トロッコ道では雨の時に山や川の状況がドラスティックに変化する様が見られて楽しい。大雨が降ると急に滝が現れ、すぐに元に戻るなど。【①】 ・トロッコ道沿いの沢は魅力的。トロッコ道を横切る沢を渡るたびに空気の冷たさを体感できる。夏場でもそこまで暑くない。【①】 ・トロッコ道にある橋から見る川の風景は魅力。荒川登山口を入れてすぐのトロッコ道のトンネルは冒険のようで面白い。【⑥】 ・トロッコ軌道の溪谷沿いは4月上旬にはヤマザクラ、6月頃にはサツキが咲き、風光明媚な空間。【雑誌】 ・昔はトロッコ道沿いの道から沢に降りることができて良かった。川の水で足を冷やしたりした。【⑤】
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・回復した杉林。林業の歴史も感じられる。【②】 ・荒川口のダムは屋久島の水循環が人の暮らしに関わっていく基点。【④】 ・日本で唯一のトロッコ軌道そのものが魅力。【②】 ・トロッコ軌道は近代産業遺産と捉えるべき。【④】 ・小杉谷集落跡や大山神社、トロッコ道では林業の歴史を感じられる。【③】【雑誌】 ・杉の巨木林、江戸時代からの伐採の歴史を感じられる。【④】 ・小杉谷周辺では伐採の歴史が感じられる。縄文杉に行く際は、小杉谷集落を含めた過去の伐採の歴史を知った上で行って欲しい。【⑤】

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレや歩道・木道が整備されている。【②】 ・ガイドが多いので、ケガなどの緊急事態の際の安全性がある程度確保されている。【②】 ・ツアーが多いので、初心者や少人数でも参加しやすい。【②】 ・長時間歩いたことによる達成感。【③】
2.利用の際の留意点・その他ご意見	
行程	<ul style="list-style-type: none"> ・ルートが長くて、8時間以上の行程と長時間の歩行が必要になるため、日帰り利用は推奨できない。ゆっくり魅力を味わえない。見どころは多いのに説明する時間もない。【①】 ・利用者に説明したいことが多くあるルート。例えば小杉谷集落跡に宿泊できる研修場所を作って、ゆっくり時間を取って、森の静けさを感じながら森の成り立ちを理解してもらうルートにするなどできると良い。今の日帰り行程は慌ただしく、色々なことを説明する時間が無い。【③】
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい入込人数は平均300人/日程度。【②】【⑤】 ・今の利用人数が多過ぎて騒がしい。このルートを楽しむなら100人/日程度が望ましい。【③】 ・縄文杉を見て良い気分になっているのに、帰り道が混雑し、なかなか進めない状況になると気分を害してしまう。【⑤】 ・大株歩道はGWの時期にかなり混雑していると感じる。休憩場所以外の歩道上で昼食を食べている人が多く、道を歩くときに困る。【⑥】
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィルソン株の周辺が現在綺麗なのは大株歩道入口にトイレができたため。それまではウィルソン株周辺で用を足す人も多かった。【①】 ・時期によってはトイレが1時間以上使えない事があるほど混む。【⑤】 ・トロッコ道のバイオトイレは、利用者が多い時期は処理が追い付いていないと感じる。【⑥】
路面整備	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の利用人数を考えると、木道上ですれ違えるようにするなど、植生保護の目的で、より木道を整備する必要があるだろう。(例えば尾瀬のように2本の木道とするなど)。【③】 ・今整備されている木道は植生保護のこともあり必要だが、人によっては自然の雰囲気にも物足りなさを感じるかもしれない。【⑤】 ・小杉谷の集落跡も整備して、ちゃんと見てもらいたい。【⑤】
看板	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の案内板が小さすぎて見えない。また、他の植物の成長によって対象の植物や風景が見えづらくなる場合があるので、雑木を伐採して欲しい。【⑤】 ・希少植物の看板は盗掘が起こる可能性があるので心配。【⑤】 ・目的地までの距離標識がもう少しあると良いかもしれない。頻繁に尋ねられる。標識は景観に配慮した目立たないものが良い。【⑤】 ・トロッコ道に植物の看板があるが、花の咲いていない時期は分かりづらい。トロッコ道に植生の案内看板などがあるのは良いが、大株歩道より上は看板が無くてよい。【⑥】
安全面	<ul style="list-style-type: none"> ・雨の時にトロッコ道を歩く時は山側を歩いて欲しい。滑りやすく危険。【⑤】【⑥】 ・大株歩道の木道は雨が降ると滑りやすい。人とのすれ違いが多いと、人を避ける際にバランスを崩すので危ない。特に下りの階段は危険。【⑥】
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・マイカー規制の広報が足りていない。【②】 ・荒川口までのバスと路線バスとの接続が悪い。バスの本数が少ない。【②】 ・携帯電話が通じない区間があるなど、連絡手段が乏しい。【②】 ・利用者は目的地の下調べをしてから来て欲しい。今の利用者はハイキング気分の下調べをほとんどしていないのではないかと。【⑤】 ・ウィルソン株のハートの写真を撮れる位置が分かりづらい。初めての人は分からないと思う。また、ウィルソン株は写真のために人が並んで混雑する。【⑥】

表 10 屋久島登山道の整備・管理方針の内容

1		屋久島の山は、現代においても山岳信仰が受け継がれている「聖地」 屋久島の自然の厳しさを認識した上で、山への畏敬の念や感謝、遠慮の心を持つての利用が求められる						
2							備考・留意点	
3		屋久島山岳部の自然にふれあう探勝ルート	屋久島山岳部の自然を楽しむトレッキングルート	屋久島山岳部の自然を体感できる登山道	屋久島山岳部の原生的な自然を体感できる登山道	屋久島山岳部の原生的かつ荘厳な自然を深く体感できる登山道		
3		想定される利用体験の質	・バスやレンタカー等で容易にアクセスでき、行程は半日未満の一般観光客向けルート。 ・木道や階段が整備され、川には橋があるなど、安全性・快適性に配慮された探勝ルートで、屋久島の自然とふれあえる。	・バスやレンタカー等で容易にアクセスでき、行程は日帰り(半日～一日)の登山入門者向けルート。 ・木道や階段が適所に設置され、川には橋があるなど、快適性が優先されたトレッキングルートで、屋久島の自然を楽しめる。	・舗装路または未舗装路での車両を用いたアクセスが基本となり、行程は日帰り(一日)の登山経験者向けルート。 ・快適性よりも自然の雰囲気や景観が優先された登山道で、屋久島の自然を体感できる。 ・危険箇所には小規模の木道や階段が設置されるが、渡渉が必要な場合があり、悪天候時には行程変更の判断が求められるなど、登山者自らの一定のリスク管理と行動判断が要求される。	・未舗装路や悪路での車両を用いたアクセスが基本となり、行程は日帰り(一日)または一泊の登山経験者向けルート。 ・自然の雰囲気の保持が最優先された、人との出会いが稀な登山道で、屋久島の原生的な自然を体感できる。 ・木道や階段の整備を行わないことを基本とする。また、渡渉が必要な場合があり、ルートの誘導は必要最低限で、悪天候時には行程変更の判断が求められるなど、登山者自らのリスク管理と高度な行動判断が要求される。	・徒歩でのアクセスが基本となり、行程は一泊以上の経験豊富な登山者向けルート。 ・自然の雰囲気の保持が最優先された、ほぼ人と出会わない登山道で、屋久島の原生的かつ荘厳な自然を深く体感できる。 ・木道や階段の整備を行わないことを基本とする。また、渡渉が必要な場合があり、ルートの誘導は必要最低限で、悪天候時には行程変更の判断が求められるなど、登山者自らのリスク管理と極めて高度な行動判断が要求される。	
4	利用者	想定される利用者	一般観光客	ハイカー・登山入門者	登山者	登山者	豊富な経験を有する登山者	一般観光客・体力や技術がそれほどない人も含む。ハイカー・登山初心者・一定の体力や技術が必要。
	想定される行程	半日未満	日帰り(半日～一日)	日帰り(一日)	日帰り(一日)・行程によって一泊	一泊以上		
	装備(靴)	歩行に適した靴(サンダル・ハイヒール等不可)	トレッキングシューズ	トレッキングシューズ・登山靴(ある程度の防水性・足首のホールド性があるもの)	登山靴(防水性が高く、足首がホールドされるもの)	登山靴(防水性が高く、足首がホールドされるもの)		
	登山装備(悪天候時や道迷い等の際の備え)	雨除け対策(登山用レインウェア)	雨除け対策(登山用レインウェア) 非常食 道迷い対策(地図・コンパスなど) ヘッドライト	一般的な登山装備(非常食、ツェルト等) 道迷い対策(地図・コンパス・GPS) ヘッドライト 救急セット	一般的な登山装備(宿泊装備含む) 行程変更対策(非常食、エマージェンシーシート、ツェルト等) 道迷い対策(地図・コンパス・GPS) ヘッドライト 救急セット	一般的な登山装備(宿泊装備含む) 行程変更対策(非常食、エマージェンシーシート、ツェルト等) 道迷い対策(地図・コンパス・GPS) ヘッドライト 救急セット		3～5は、増水で渡渉点が渡れなくなった場合等の装備が必要。 4, 5は、道迷いしてしまった場合に自分の位置を確認し、ルートに復帰するための装備が必要。
5	想定されるリスクと対策の方針	道迷い	道迷いの発生防止を最優先とした整備・管理とする。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	道迷いの発生防止を優先させた整備・管理とする。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	道迷いの発生に関して一定のリスクを伴うが、自然の雰囲気の保持を優先させた整備・管理とする。	自然の雰囲気の保持を最優先とした、道迷いの発生を防止するための必要最低限の整備・管理とする。	自然の雰囲気の保持を最優先とした、道迷いの発生を防止するための必要最低限の整備・管理とする。	
	路面状況による転倒などのケガ	転倒の発生等の防止を最優先とした整備・管理とする。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	自然の雰囲気の保持よりも、転倒の発生等の防止を優先させた整備・管理とする。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	転倒の発生等に関して一定のリスクを伴うが、自然の雰囲気の保持を優先させた整備・管理とする。	自然の雰囲気の保持を最優先とした、転倒の発生等を防止するための必要最低限の整備・管理とする。	転倒の発生等の防止に関する整備を行わないことを基本とし、必要最低限の管理とする。		
	荒天時のリスク(渡渉点の増水・大雨や霧による視界不良などによる行程変更)	荒天時にも安全に避難・待機することが可能な整備・管理を行う。	必要に応じて、荒天時にも避難・待機することが可能な整備・管理を行う。	利用者自らの能力・装備・経験による対応を基本とし、既存の避難小屋や一部の休憩スペース以外に荒天時のリスクに対する整備は行わず、管理は必要最低限とする。	利用者自らの能力・装備・経験による対応を基本とし、既存の避難小屋以外に荒天時のリスクに対する整備は行わず、管理は必要最低限とする。	利用者自らの能力・装備・経験による対応を基本とし、既存の避難小屋以外に荒天時のリスクに対する整備は行わず、管理は必要最低限とする。		
6	利用の頻度・利用の容易さ	人との出会い(繁忙期を除く)	常に人に出会い、時に渋滞が起きる。数十名の団体利用も想定される。	しばしば人に出会う。	時々(1時間に数回程度)人に出会う。	稀に(1日に数回程度)人に出会う。	1日の行程で、ほとんど人と出会わない。	普通の平日を想定。
	アクセス	バス・レンタカー等で容易に到着できる。	バス・レンタカー等で容易に到着できる。	舗装路を利用して、車両で到着できる。場所によっては、未舗装路利用の場合もある。	未舗装路・悪路を利用して車両で到達する。場所によっては徒歩でのみ到達可能な場合もある。	徒歩での到達を基本とする。場所によっては未舗装路・悪路を利用して車両で到達可能な場合もある。		
7	環境	自然らしさ(人工物の状況)	安全性・快適性のため、人工的な構造物が頻りに設置されている環境	安全性・快適性のため、人工的な構造物が適所に設置されている環境	安全性・快適性のため人工的な構造物が少なく、自然の雰囲気の保持が優先された環境	人工物がほとんど無い、原生的な自然を感じられる環境	人工物がほとんど無い、原生的な自然を感じられる環境	
	音	人工音(自動車の走行音等)が聞こえる場合がある。	人工音(自動車の走行音等)が聞こえる場合がある。	まれに人工音(自動車の走行音等)が聞こえる場合がある。	静かで、ほぼ自然音のみが聞こえる。	静かで、ほぼ自然音のみが聞こえる。		
8	道の歩きやすさ(路面・木道の整備)	ぬかるんでいる場所、木の根や石で滑りやすい場所、傾斜がある場所等には、歩きやすい木道・階段等を設置する。	地面を歩くことを基本とするが、木の根・石・斜面などの滑りやすい場所には、必要に応じて木道・階段を設置する。	地面を歩くことを基本とし、特に滑りやすい部分や急傾斜等には必要に応じて小規模な木道を設置する。	路面の整備、木道の設置を行わないことを基本とする。	路面の整備、木道の設置を行わないことを基本とする。	・設置した木道等は適切に保全・補修等を行う。 ・登山道荒廃対策や植生の保護を目的とした木道については、ランクによらず適切に設置する。 ・整備の程度はランク・状況により検討が必要となる。	
	橋・渡渉点の対応	渡渉しなくてよいように、橋等を設置する。	・渡渉しなくてよいように、必要に応じて簡易な橋を設置する。 ・橋を設置しない場合、渡渉点が増水した際は管理者の判断で利用を制限することがある。	対策を行わないことを基本とし、渡渉が必要な場合がある。必要に応じてロープやフイーヤーを設置する。 (渡渉の可否について利用者自らが判断することを基本とする)	対策を行わないことを基本とし、渡渉が必要な場合がある。 (渡渉の可否について利用者自らが判断することを基本とする)	対策を行わないことを基本とし、渡渉が必要な場合がある。 (渡渉の可否について利用者自らが判断することを基本とする)		
	ロープが必要な登坂・岩登り箇所への対応	必要な箇所に階段等を設置する。	必要な箇所に階段やはしご等を設置する。	必要な箇所にロープや鎖を設置する。	必要な箇所に最低限のロープや鎖を設置する。	対策を行わないことを基本とするが、危険箇所には必要最低限の対策を行う。		
	トイレ・携帯トイレの設置	出入口に男女別のトイレを設置する。距離・入込者数等の必要に応じて、区間内にも適宜トイレを設置する。(処理の方法は状況による)	出入口に男女別のトイレを設置する。距離・入込者数等の必要に応じて、区間内にも適宜携帯トイレを設置する。	必要に応じて、区間内の要所に携帯トイレを設置する。設置の際は自然の雰囲気の保持に配慮する。	区間内には必要最低限の携帯トイレを設置する。設置の際は自然の雰囲気の保持に配慮する。	トイレ・携帯トイレを設置しない。野外での携帯トイレ使用を基本とする。		
	休憩施設・ベンチ	雨除け可能な東屋を適所に設置する。ベンチを一定間隔で設置する。	ベンチ・休憩スペースを適所に設置する。必要に応じて雨除け可能な東屋の設置する。	必要に応じて最低限の休憩スペースを設置する。避難小屋やその周辺のスペースを利用する。	設置しない。	設置しない。		
	宿泊施設	山での宿泊の想定無し	山での宿泊の想定無し	山での宿泊の想定無し	避難小屋 避難小屋周辺でのテント泊	宿泊施設、避難小屋及びテント場は設置しない。(他ルートの避難小屋利用を想定)	緊急的にビバークする場合を除く。	
9	管理	案内(道の案内・地図等)	入口及び分岐点・立ち寄り地点の要所に設置(登山道のランクを明記して、注意喚起)	入口に設置(登山道のランクを明記して、注意喚起)	入口に設置(登山道のランクを明記して、注意喚起)	簡易なものを入力に設置(登山道のランクを明記して、注意喚起)	簡易なものを入力に設置(登山道のランクを明記して、注意喚起)	
		道標	分岐点及び一定区間ごとに設置	分岐点及び一定区間ごと(頻度は中程度)に設置	分岐点及び必要に応じて区間内に最低限の設置	分岐点にのみ設置	分岐点にのみ設置	
		規制・注意	入口に注意点を明記。全ての規制・危険箇所を設置。	入口に注意点を明記。必要に応じて規制・危険箇所を設置。	必要に応じて規制・危険箇所を最低限の設置。	入口に特筆すべき注意点を明記。区間内では設置しないことを基本とするが、特に危険な箇所については、必要に応じて簡易看板等による注意喚起を行う。	入口に特筆すべき注意点を明記。区間内では設置しないことを基本とするが、特に危険な箇所については、必要に応じて目印(テープ等)による注意喚起を行う。	危険箇所明示のための目印(テープ)は、誘導目的のものと混同しないものを用いる。
		解説	優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。また、上記が存在する箇所に解説板を設置する。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。また、上記が存在する箇所に解説板を設置する。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	特に優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。また、上記が存在する主な箇所に必要最低限の解説板を設置する。(整備の際は自然の雰囲気の保持に配慮)	特に優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。※各箇所には設置しない。	特に優れた景観、特徴的な植物等、文化的施設等に関して、入口の案内標識等で解説する。※各箇所には設置しない。	
	ルートの誘導・ルート外へ出ないようにするための規制	・ルートが明確な状態とする。 ・不明瞭な箇所においては、橋、ロープ、木道等により歩行可能な場所が明確な状態とする。	・ルートが明確な状態とする。 ・不明瞭なルート外に利用者が逸出する可能性がある区間ではロープ等によりルートが判別できる状態とする。	・ルートが明確な区間での誘導は行わない。 ・ルートが不明瞭な区間では、必要最低限の間隔で誘導のための目印(テープ等)が設置された状態とする。	・区間内のルートの誘導は行わない。 ・ルートが特に不明瞭な区間では、必要最低限の間隔で誘導のための目印(テープ等)が設置された状態とする。	・区間内のルートの誘導は行わない。 ・ルートが特に不明瞭な区間では、必要最低限の間隔で誘導のための目印(テープ等)が設置された状態とする。	誘導のための目印(テープ)は、他の目的のものと混同せず、視認性が高いものを用いる。	
危険木(倒木や落枝の恐れのある木)の処理	定期的に危険木の有無を確認する。基本的に伐採又は枝落とし等の処理を行い、当該処理ができない場合には簡易看板等による注意喚起を行う。	必要に応じて簡易看板等による注意喚起を行う。	必要に応じて最低限の簡易看板等による注意喚起を行う。	対策を行わないことを基本とするが、特に危険な木については、必要に応じて簡易看板等による注意喚起を行う。	危険木明示のための目印(テープ)は、誘導目的のものと混同しないものを用いる。			
倒木の処理	巡視時に倒木があった場合、速やかに処理する。ルート上に倒木等が無い状態を保つ。	巡視時に倒木があった場合、速やかに処理する。ルート上に倒木等が無い状態を保つ。	巡視時に状況を確認する。状況に応じて倒木の処理を行い、通行可能な状態とする。	巡視時に状況を確認する。通過できる程度の必要最低限の処理を行う。	巡視時に状況を確認する。倒木迂回による植生への影響、倒木乗り越え時の危険、倒木による道迷い、倒木が登山道保全に影響がある場合のみ、周辺環境への影響が出ない方法で処理を行う。	応急措置として、通行止めや迂回路とする場合もある。		
草木の刈り払い	必要に応じて定期的に刈り払いを行い、草木が通行の妨げとならず、快適に歩行できる状態を保つ。	必要に応じて定期的に刈り払いを行い、草木が通行の妨げとならない状態を保つ。	巡視時に状況を確認する。自然の雰囲気の保持を優先しつつ、必要に応じて必要箇所の刈り払いを行い、通行可能な状態とする。	巡視時に状況を確認する。原生的な自然の雰囲気の保持を最優先とし、必要に応じて、通過できる程度の最低限の刈り払いとする。	巡視時に状況を確認する。原生的な自然の雰囲気の保持を最優先とし、必要に応じて、通過できる程度の最低限の管理とする。			
巡視の頻度	1日に1回程度実施	1週間に1回程度実施	1ヶ月に1回程度実施	年に1～2回程度実施	年に1回程度実施			

【ランクを問わず必要な留意点】

※1 利用体験ランクの設定は無雪期で荒天を除いた天候での利用時を想定しており、降雪期・積雪期や荒天時には利用に伴うリスク(渡渉点の増水や視界不良、転倒のリスク等)が想定より高くなることに留意が必要である。

※2 ランクを問わずヒルによる咬傷の可能性があるため、利用者に適切な対応をするように推奨する。

表 11 登山ルートのあるべき利用体験ランク整理表

利用体験 ランク※	No.	ルート
1	13	ヤクスギランド30分・50分コース
	19	白谷雲水峡 弥生杉コース
2	14	ヤクスギランド80分コース
	15	ヤクスギランド150分コース
	16	ヤクスギランド210分コース
	20	白谷雲水峡 奉行杉コース
	21	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩 往復
3	1	荒川口～縄文杉往復 日帰り
	3	淀川入口～黒味岳往復 日帰り
	10	モッコム岳往復 日帰り
	17	ヤクスギランド～太忠岳往復 日帰り
	18	ヤクスギランド～大和杉往復 日帰り
	22	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩～奉行杉コース～入口
	23	尾之間歩道入口～蛇之口滝往復 日帰り
4	2	荒川口～縄文杉～白谷雲水峡 1泊
	4	淀川入口～宮之浦岳往復 日帰り
	5	淀川入口～宮之浦岳～荒川口 1泊
	6	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡 1泊
	11	愛子岳往復 日帰り
	12	龍神杉往復 日帰り
	24	淀川入口～尾之間歩道入口 日帰り
	29	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口 1泊
5	7	永田歩道入口～永田岳往復 1泊
	8	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～花山歩道入口 1泊
	9	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～永田歩道入口 1泊
	25	淀川入口～黒味岳～花之江河登山道～ヤクスギランド出口 1泊
	26	湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復 日帰り
	27	淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯泊歩道入口 1泊
	28	淀川入口～旧栗生歩道入口 1泊

【前提となる条件】

- ・利用体験ランクは、5年後から10年後に目指すべき将来像として、各登山ルートでのあるべき利用体験の質を5段階で表したものとなる。
- ・ランクの設定は、各登山ルートの魅力や得ることができる利用体験、必要な体力や想定されるリスク、整備状況等を踏まえた総合的な判断による。

※留意点

- ・利用体験ランクは、各登山ルートの現況を表すものではなく、また、各登山ルートの難易度の評価ではないことに留意する。
- ・具体的な整備方針については、各登山ルートの利用体験ランクを踏まえ、区間ごとに検討する。

表 12 各登山ルートのあるべき利用体験ランク

区分	No.	ルート	利用体験 ランク (案)	利用体験ランク選定理由	備考・留意点
縄文杉	1	荒川口～縄文杉往復 日帰り	3	・WSでの議論を踏まえ、コースタイムや距離、必要な体力やリスク面等を考慮し、ランク3を想定。	・WSにおいて、「想定される利用体験の質の面ではランク2が妥当であると思う。また、現状の利用状況を踏まえると、施設整備の水準としてはランク2が望ましい」との意見が挙げられた。 ・日帰りではなく高塚小屋等を利用した宿泊想定の場合、より深い利用体験を得ることができる(人の少ない静かな状況で縄文杉を見ることができ、など)。
	2	荒川口～縄文杉～白谷雲水峡 1泊	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・宿泊想定であり、時間の余裕はできるが、宿泊のための知識、経験、装備が必要となる。宿泊装備を運搬する体力も必要。 ・日帰りよりも利用者が少なく、静かに、より深く自然を体感することができる。	・宿泊は高塚小屋の利用を想定。 ・H30第4回検討会において、荒川登山口往復コースよりも、峠を1つ多く越えることから体力が必要との指摘があった。
黒味岳	3	淀川入口～黒味岳往復 日帰り	3	・魅力として奥岳の原生的な自然を体感できるルートであるが、コースタイムや距離、体力面やリスク面といった現況等を考慮し、ランク3を想定。	
宮之浦岳	4	淀川入口～宮之浦岳往復 日帰り	4	・WSでの議論を踏まえ、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。 ・WSにおいて、「比較的人との出会いがあるルート」、「日帰り想定の場合、一日のコースタイムが非常に長くなるため、推奨できない」との意見が挙げられた。
淀川入口～荒川口	5	淀川入口～宮之浦岳～荒川口 1泊	4	・WSでの議論を踏まえ、宿泊想定であること、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	・宿泊は新高塚小屋もしくは高塚小屋の利用を想定。
淀川入口～白谷雲水峡	6	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡 1泊	4	・宿泊想定であること、必要な体力やリスク、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性といった魅力を考慮し、ランク4を想定。	・宿泊は新高塚小屋もしくは高塚小屋の利用を想定。
永田歩道・花山歩道	7	永田歩道入口～永田岳往復 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・宿泊は鹿之沢小屋の利用を想定。
	8	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～花山歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・第3回検討会において、「湯泊歩道や栗生歩道といった他の歩道の比較した場合、現在の花山歩道の状況はランク4が適当」という意見が挙げられた。 ・理想の状況として、ランク5の利用体験が可能なルートとすることを旨とし、適切な整備・管理水準とすることを想定。 ・宿泊は鹿之沢小屋の利用を想定。
	9	淀川入口～宮之浦岳～永田岳～永田歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・宿泊は鹿之沢小屋の利用を想定。
モツチョム岳	10	モツチョム岳往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、前岳エリアであることを考慮。 ・日帰り行程で、万代杉(巨木)やコケのきれいな沢、山頂からの眺望など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・雨が降った場合に滑りやすくなる箇所があるなどの留意点が挙げられており、利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。 ・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。
愛子岳	11	愛子岳往復 日帰り	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・コースタイムや距離、必要な体力やリスク面を考慮。 ・日帰り行程で、登山口から世界遺産地域に含まれており、山頂からの眺望や照葉樹林から針広混交林までの植生の移り変わり等を体感できるルート。	・雨が降った場合に滑りやすくなる箇所があるなどの留意点が挙げられており、利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。 ・山頂に祠のある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。
龍神杉	12	龍神杉往復 日帰り	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・コースタイムや距離、必要な体力やリスク面を考慮。 ・日帰り行程で、龍神杉等の巨木や苔の生えた石量などを楽しむことができるルート。また、トロッコ道跡があり、林業の歴史を感じることができる。	・浸透点があり、道迷いや転倒等のリスクが比較的高く、ヒルが多いことから、現状では利用に伴うリスクが高い(現況評価で5)。
ヤクスギランド	13	ヤクスギランド30分・50分コース	1	・第3回検討会時に決定。	
	14	ヤクスギランド80分コース	2	・コースタイムや距離は比較的小さいが、整備状況等を踏まえランク2を想定。	
	15	ヤクスギランド150分コース	2	・コースタイムや距離、体力面やリスク面、整備状況等の現況を踏まえ、ランク2を想定。	
	16	ヤクスギランド210分コース	2	・コースタイムや距離、体力面やリスク面、整備状況等の現況を踏まえ、ランク2を想定。	
太忠岳	17	ヤクスギランド～太忠岳往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、体力面やリスク面等の現況を考慮。 ・日帰り行程で、植生の変化やスギの天然林、山頂付近からの展望など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・山頂に祠がある岳参りの道であり、神聖性に配慮した整備・利用の状況が望ましい。
大和杉	18	ヤクスギランド～大和杉往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、体力面やリスク面等の現況を考慮。 ・日帰り行程で、大和杉(巨木)や苔むした風景、原生林の雰囲気など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・聞き取りの際、留意点として「道迷いや滑りやすい箇所がある」という意見が挙げられた。
白谷雲水峡	19	白谷雲水峡 弥生杉コース	1	・WSでの議論を踏まえ、一般観光客を含めた様々な利用者が屋久島の自然とふれあうことができるルートとして、ランク1を想定。	・WSにおいて、「ランク1を想定した場合、登り階段の厳しさ、入口付近の岩場等での転倒リスクがある」という意見が挙げられた。
	20	白谷雲水峡 奉行杉コース	2	・WSでの議論を踏まえ、コースタイムや距離、体力面を考慮し、ランク2を想定。(渡渉点のリスクについての対策は留意点参照)	・渡渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。
	21	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩往復	2	・WSでの議論を踏まえ、コースタイムや距離、体力面を考慮し、ランク2を想定。(渡渉点のリスクについての対策は留意点参照)	・渡渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。
	22	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩～奉行杉コース～入口	3	・WSでの議論を踏まえ、No.22やNo.23と比較してコースタイムや距離が長くなり、体力面が厳しくなることを考慮し、ランク3を想定。	・渡渉点増水時の危険性についての事前周知、増水時の利用制限等の適切な実施が必要。
尾之間歩道	23	尾之間歩道入口～蛇之口滝往復 日帰り	3	以下の点を考慮し、ランク3を想定。 ・コースタイムや距離、リスク面(現況評価で4)を考慮。 ・日帰り行程で、蛇之口滝の景観や、希少な植物が生育する照葉樹林など、屋久島山岳部の自然を体感できるルート。	・現状では利用に伴うリスクが比較的高い(現況評価で4)。
	24	淀川入口～尾之間歩道入口 日帰り	4	以下の点を考慮し、ランク4を想定。 ・利用に伴うリスクは高い(現況評価で5)が、日帰り行程が可能であることを考慮。 ・日帰り行程で、スギ林から照葉樹林への植生の変化を体感でき、鯛之川や蛇之口滝の景観を楽しむことができるルート。 ・原生的な自然を静かに体感できる現状の利用状況や整備水準を維持することが望ましい。	・現状では利用に伴うリスクが高い(現況評価で5)。
花之江河登山道	25	淀川入口～黒味岳～花之江河登山道～ヤクスギランド出口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・宿泊は石塚小屋の利用を想定。
湯泊歩道・栗生歩道	26	湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復 日帰り	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・原生的な自然を静かに体感できる現状の整備水準や利用状況を維持することが望ましく、かつ山頂に祠がある岳参りの道としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。 ・コースタイムや距離から日帰り行程が可能ではあるが、アクセスルートが崩壊しており、登山口への到達が困難かつ時間がかかる状況であることから、例外としてランク5を想定。	・第4回検討会において、「登山口までの林道の崩壊によりアクセスが困難であるとともに、登山口が非常に分かりづらい。」との意見が挙げられた。 ・聞き取りでは「比較的登りやすいルート」との意見が挙げられた一方、「木道や標識は少ない。整備状況や利用者の数は現状程度が望ましい」との意見が挙げられた。
	27	淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯泊歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・宿泊は石塚小屋の利用を想定。
	28	淀川入口～旧栗生歩道入口 1泊	5	以下の点を考慮し、ランク5を想定。 ・宿泊想定であり、体力面・リスク面・整備状況等から非常に厳しいルート。 ・厳しい行程のなかで、原生的かつ荘厳な自然や山岳信仰の聖地としての神聖性など、様々な魅力を深く体感できる。	・宿泊は石塚小屋の利用を想定。
楠川歩道	29	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口 1泊	4	・宿泊想定であること、奥岳の原生的な自然の体感や山岳信仰の中心となる地域の神聖性、楠川歩道の歴史的な雰囲気(石積歩道、石標)といった魅力、必要な体力やリスク等を考慮し、ランク4を想定。	・宿泊は新高塚小屋もしくは高塚小屋の利用を想定。

区分	No.	対象ルート	利用体験 ランク
縄文杉	1	荒川口～縄文杉往復 日帰り	3
	2	荒川口～縄文杉～白谷雲水峡 1泊	4
黒味岳	3	淀川入口～黒味岳往復 日帰り	3
宮之浦岳	4	淀川入口～宮之浦岳往復 日帰り	4
淀川入口～ 荒川口	5	淀川入口～宮之浦岳～荒川口 1泊	4
淀川入口～ 白谷雲水峡	6	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡 1泊	4
永田歩道・ 花山歩道	7	永田歩道入口～永田岳往復 1泊	5
	8	淀川入口～花山歩道入口 1泊	5
	9	淀川入口～永田歩道入口 1泊	5
モッチョム岳	10	モッチョム岳往復 日帰り	3
愛子岳	11	愛子岳往復 日帰り	4
龍神杉	12	龍神杉往復 日帰り	4
ヤクスギランド	13	ヤクスギランド30分・50分コース	1
	14	ヤクスギランド80分コース	2
	15	ヤクスギランド150分コース	2
	16	ヤクスギランド210分コース	2
太忠岳	17	ヤクスギランド～太忠岳往復 日帰り	3
大和杉	18	ヤクスギランド～大和杉往復 日帰り	3
白谷雲水峡	19	白谷雲水峡 弥生杉コース	1
	20	白谷雲水峡 奉行杉コース	2
	21	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩往復	2
	22	白谷雲水峡 入口～辻峠～太鼓岩～奉行杉コース～入口	3
尾之間歩道	23	尾之間歩道入口～蛇之口滝往復 日帰り	3
	24	淀川入口～尾之間歩道入口 日帰り	4
花之江河登山道	25	淀川入口～黒味岳～花之江河登山道 1泊	5
湯泊歩道・ 栗生歩道	26	湯泊歩道入口～七五岳・烏帽子岳往復 日帰り	5
	27	淀川入口～烏帽子岳・七五岳～湯泊歩道入口 1泊	5
	28	淀川入口～旧栗生歩道入口 1泊	5
楠川歩道	29	淀川入口～宮之浦岳～白谷雲水峡～楠川歩道入口 1泊	4

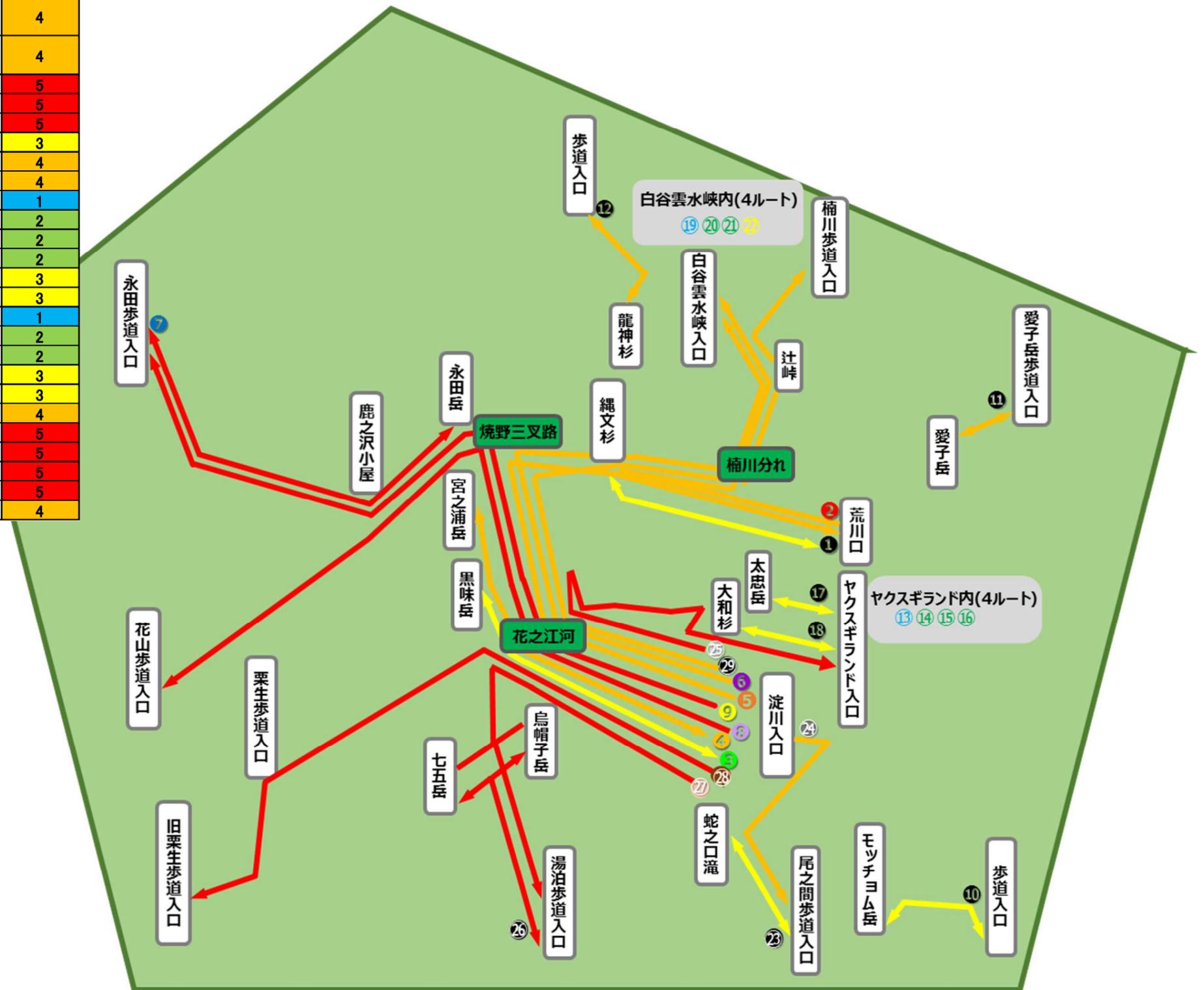


図2 対象登山ルートへのルート図 (利用体験ランクにより色分け)